モントリオールへの道

ナショナルチームと同じように、あるいはそれ以上にと云ってよいかも知れないが、日本のレフェリー・ソサイエティのオリンピックを目指す意欲はなみなみならぬものがある。

日本のレフェリーが、これまで世界の檜舞台でホイッスルを手にしたことはない。

正確なデータがないので明言はさけたいが、ヨーロッパ地域以外の国のレフェリーが、世界選手権、オリンピックで登用されたケースは、いまだかってないハズである。

それほど、国際ハンドボール界におけるレフェリーの人選は平生の実績がモノを云い、経験が尊ばれるのだ。

アジアやアフリカやアメリカで、いくら巧いレフェリングをすると云っても、IHF（国際ハンドボール連盟）は、簡単には門戸を開かない。その固さは想像以上だ。

日本の関係者は、それだけにいっそう〝斗志〟を燃やし、アタックを試みているわけで、近年、日本協会審判部の意欲的、前進的姿勢には、こうした背景が、大きく作用していると思う

本誌の調べによると、日本人がレフェリーとしてヨーロッパのコートに立った最初の記録は、昭和36年3月4日、渡欧中の全日本男子がハイデベルグ選抜（西ドイツ）と対戦した際、同行していた荒川清美氏（現理事長）が、後半の30分間を担当（注・当時は単審制）した時である。

その後、渡欧の機会を得た二、三のかたが、友好的にレフェリングの機会を与えられ好評を得たが、ビッグエベントでのキャリアを積むまでにはいたらず、IHFの目にとまる〝快挙〟は生まれていない。

だからといって日本人レフェリーが過少評価されているわけではなく、4年前来日したIHF技術畑の大御所エミール・ホルレ氏（スイス）も、実際に日本人レフェリーで国際試合を運行一任したイワン・スノイ氏（ユーゴ）も、「充分、国際舞台で通用するペアが居る」と云っている。

にもかかわらず、孤島のハンデが響いてチャンスは訪れない。

日本協会の1年余にわたる交渉も空しく、今秋10月のプレオリンピックもヨーロッパ勢がレフェリングするようだが、この程度で坐折することなく、〝栄光の日〟を目指していっそう日本審判陣の精進を期待しておきたい。　（Z）

市民ハンドボールの芽

何年か前から本誌あてに東京クラブ連盟の公式戦パンフレットを送りつづけていただいている。

このリーグの特色は、5月なかばに開幕して、予選ラウンド終了が10月のなかば、そのあとチャンピオンを決める決勝トーナメントを組む日程編成にある。

たいへんな長期戦と思われるだろうが、7月第1週以降は夏休みを2ケ月とるので、このようなことになる。

ただでさえ暑いところへ、近年は光化学スモッグ問題もおきる東京の夏。

この時期に試合を組んでは、集るチームも集らなくなる。

なかなか考えたスケジュールではないか。

それに、市民チームを対象にことを運ぶ場合、のべつまくなしに試合や大会を開くのは考えものなのである。

今年の加盟チームは男子27、女子3で、男子は3ブロックに分けるから、1クラブが予選ラウンドだけで、最低8試合はハンドボールを楽しめる勘定。

この試合数を、ともかく5ケ月をかけて、だいじにこなすわけだ。手ごろである。

このあたりがクラブ関係者のこれまでにないセンスであって筆者が大いに買うところ。

プロ野球のように、開幕前にきっちりと、全日程が発表されているし、仕事や通学に忙しい選手たちも、予定をたてやすい。

口の悪い連中に云わせると、既存の組織より、はるかに秀れた運営能力ということになる。

参加チームも高校、大学のOB職場単位、地域単位、実業団OB大学同好会など多種多様で、なかには県人会的な陣容のチームもある。

同郷人が、ハンドボールを通じて友好を深めあうなどは、ほほえましい。

選手たちの職業、職種も当然のことながら多彩である。

チームの目的は、「楽しみ第一」が圧倒的だが、新加盟の稲門ク(早大OB)のように、このリーグを振り出しにして、最終点を今冬12月の全日本総合出場へ置いているところもある。

日本ハンドボール界の本流は、競技向上のみを追い求める路線によって占められているが、将来はこうした市民ハンドボールを基盤にした組織によって〝支持〟されるべきではなかろうか。

それがスポーツ界本来の姿なのでもあろう。　（杉山）

「ハンドボール」

50年7月号（第132号）目次

モントリオールへの道……(1)
市民ハンドボールの芽……(1)
日本協会財政の解説……(2)
日韓学生交流……(6)
アジア予選開催地……(10)
全日本男女始動……(11)
明日への提言……(11)
日本実業団リーグ
男子……(12)
女子……(16)
各地学生春季リーグ……(20)
全日本高校各県
予選記録(上)……(24)
ブロック高校選手権……(29)
各地の記録……(30)
編集後記……(32)

【表紙写真】日本実業団リーグ湧永薬品×三景戦。湧永・戸田のベテランらしいプレー。（6月15日・横浜平沼記念体育館）

撮影・山田真市

危機に立つ日本協会財政

日本協会がかってない財政危機に見舞われている。

日本協会の発展は健全な財政基盤があってこそ成り立つだけに問題は極めて深刻である。5月17日の全国理事会（本紙既報）では，全理事が各組織，各連盟に対し，現情説明と理解を求め，この危機を総力あげて突破すると決めたが，本誌では最近10年の収支（決算報告）を参考にしながら呻吟する日本協会の台所を“解説”することにした。

（編集委員会）

これまでの日本協会の財政を眺めてみると、貯めてはつかい、つかっては貯めるという繰り返し、ある意味では「思い切りのよい施策」といえた。

特に、昭和44年度に行った全日本男子の欧州強化遠征（20人、4ケ国60日間の転戦、合宿）は900万円近い経費を丸抱え。それまで数年間の貯畜をすべて投じ、内外の話題となったものだ。

別表①の総合収支を一覧するとこうした傾向が浮き出し、田村（会長）―荒川（理事長）体制の特色とさえ云ってよいほどである。

ところが46年度あたりからころした〃やりくり〃も、しだいに心細い数字を示しはじめるようになった。

強気で運んできた荒川理事長も「店じまいの危機」と深刻な表情を浮かべ、各会合で財政問題はつねに主議題とされている。

その原因は、物価の高とうと、国際、国内事業の拡充の二点につきる。

物価の変動は、登録料など収入の上っている面もあるだけに、理解を得にくいが、事業の進展は、日本協会の成長とイコールだけに微妙である。

特にオリンピック定着で国際事業が拡がり、収支とも史上初の四千万円台をマークした48年度は、男女の世界選手権とユーゴ招待という、かっての日本協会では考えられぬほど大きなスケールの仕事を消化している。

国内事業の前進にもお金がかけられている。

各専門部の事業予算は、48年度から部別に配分されることになったが、それまでは、すべて（予備費支出）の枠で処理された。

みかたを変えれば、その程度の内容でもあったのだが、近年は各専門部の意欲的な姿勢によって、それぞれ一本立ちした予算編成が必要となってきている。

国内事業費も大幅増

例えば、42年度に技術・審判・普及の3部の経費をみてみると、

技術　九五四、〇九五円
審判　三八一、六六〇円
普及　二七八、一九〇円

である（いずれも本誌調べ）

別表②の49年度事業費(中間報告)の数字と見比べていただきたい。

桁違いの増額である。このなかには、全国教育系大学研修会（普及担当）のような新しい大事業が含まれているものもあるし、審判部担当のルールブック印刷製本費の変動といった外的要因も含まれてはいるが、いずれにせよ国内経費は、驚くべきはね上りかたなのだ。事務局経費もかさむばかりである。別表②の「IHF加盟金」から「印刷費」まで15勘定科目の総計をみてみると、例えば40年度は二、七九一、六二八円でおさまっているが、48年度では六、八四三、八九五円と約二・五倍のふくれあがり。

本来、この支出をまかなうのは加盟金、登録金、審判審査料と云われており、この3項目の総額を調べると、40年度が約202万円、48年度が約595万円。

いずれも、支出額に充当していないのは、仕方がないとして、支出の二・五倍（40年度）を上廻る二・九倍（48年度）の収入をはじき出していながら、マイナス食いこみ額は40年度が約77万円、48年度が約90万円と逆に増えているのは、痛手の一つとしてはね返っている。

49年度は、まだ中間報告の段階だが、加盟金は100万円台、登録金は500万円台といずれも史上最高額が記録されているものの、事務局経費も800万円を越すとみられ、ますますマイナス食いこみ額の増える傾向を強めている。

事務局経費というのは、日本協会の基本運営費でもあり、荒川理事長が「店をたたまなければならなくなる」と云うのも、この点を指している。

増収はしているが、事業の拡充にとうてい追いつかぬ現状―結論は当然「新しい財源の確保」となるのである。

別表①最近10年間の日本協会総合収支(単位円)

	収入	支出	剰余又は損失(△印)
昭和39年度	15,126,126	9,458,797	5,667,329
昭和40年度	10,837,203	8,488,827	2,348,376
昭和41年度	18,734,710	17,283,478	1,451,232
昭和42年度	18,344,070	17,840,621	503,449
昭和43年度	12,685,582	11,032,954	1,652,628
昭和44年度	16,012,274	26,036,498	△10,024,224
昭和45年度	18,044,190	11,910,039	6,134,151
昭和46年度	34,470,563	40,508,060	△ 6,037,497
昭和47年度	23,530,365	20,903,507	2,626,858
昭和48年度	46,405,948	44,436,308	1,969,640
昭和49年度(推定)	27,525,000	37,585,000	△10,060,000

「企業の後援」は難行

新しい資金源となると、これまではまずチームが頭に浮かび、選手（個人）が対象とされた。

しかし、この10年間再三にわたる値上げは、チームや個人の拒絶反応を生みはじめている。2月の全国代議員会では、かなり厳しい声が開かれ、執行部側も「これ以上ムリだ」という感触から、辛くも3ランクの組織協力金徴収（本

別表② 最近10年間日本協会一般会計支出項目別一らん表（44年度以降は総合会計）（単位円）

	40年度	41年度	42年度	43年度	44年度	45年度	46年度	47年度	48年度	49年度（推定）
I.H.F加盟金	133,930	83,836	280,642	517,960	189,794				159,752	196,000
日体協加盟金						981,762	730,830	452,514	100,000	
協会室賃借料	480,000	480,000	480,000	720,050	294,900				720,000	
会議費	210,182	200,883	323,801	377,110	493,818	204,635	352,855	408,343	631,210	1,353,000
会議旅費・交通費	285,260	203,190	727,934	552,366	1,680,015	730,670	777,720	1,143,910	各部事業費に含む	
大会旅費			894,464	133,818	108,320					
総務部事業費	事務局雑費に含む				予備費支出に含む			277,855		
補助金	100,000	300,000	300,000	国内事業費に含む		145,000	350,000	125,000	1,231,936	1,683,000
大会参加費			217,000	266,000		209,298		97,048		133,000
事務局雑費	107,820	217,269	117,736	雑損失に含む	13,740	15,240	34,707	30,505	174,840	211,519
人件費	547,720	360,640	450,800	956,583	920,110	1,325,381	1,784,132	1,951,800	2.311,800	2,968,040
備品費	68,200	36,112	15,450	26,650	148,664	48,328	106,951	142,531	12,500	
消耗品費	44,945	54,069	182,137	134,510	326,946	68,360	124,345	385,343	134,312	1,910,000
通信費	307,328	384,046	421,523	714,005	1,395,870	683,984	1,087,239	1,249,169	710,410	
印刷費	506,243	219,646	168,800	846,510	2,702,230	2,837,973	3,547,190	4,464,586	607,105	
機関誌発行費	43年度までは特別会計								4,732,553	6,150,000
編集・取材費					200,000	263,400	264,170	122,900		
予備費支出									0	0
審判部事業費	434,470	競技力向上事業費に含む	1,347,517	1,959,729	734,460	930,506	939,471	866,245	1,791,910	1,028,000
普及部事業費									184,170	1,149,000
中学部事業費								550,000	550,000	650,000
競技力向上事業費	800,000	1,200,000			10,224,933	1,712,003	3,591,009	3,962,834	2,551,759	
技術部事業費	予備費支出に含む（41年度は競技力向上費）					50,000	123,600			5,301,000
強化委員会費						7,280			109,330	
世界選手権費		3,331,800	特別会計		3,839,667	529,645	5,762,184	1,535,855		10,097,000
国際事業費	410,000	1,600,000					19,375,849	1,587,710	26,785,520	2,847,000
国内事業（全国大会）費	36,632	906,870	800,000	1,176,333	785,000	950,000	770,000	952,500		
渉外・交際費	370,395	394,289	86,159	389,178	予備費支出に含む				139,171	346,731
IF会議費		欠席		0		0		240,000	240,000	740,000
スポーツ少年団費	0	916,880	0	0	0	0	0	0	0	0
全日本選抜自主開催					426,893		618,241	0	0	廃会
利息	0	0	0	0	0	0	129,737	94,255	0	100,955
雑損失	事務局雑費に含む			110,000	1,551,138	216,574	37,800	317,604	320,000	55,000
財務部事業費									188,000	228,000
計	4,843,125	10,889,530	6,396,227	8,880,802	26,036,498	11,910,039	40,508,060	20,903,507	44,436,308	37,585,000

誌128号参照）を議決しただけで終っている。

こうなると、新たな財源は、他の分野に求める以外に道はない。

田村会長は、林副会長を中心とする実連―企業畑に支援を求め、3月時点でとりあえず300万円を目標に乗り出したが、その最初のゲートともいうべき「実業団オーナー懇親会」（3月8日、東京）で早くも行く道を閉ざされてしまった。

不況というマイナス材料はあったが、各オーナーは、実業団連盟に用立てを頼むイージーな〝金策〟に批判的。はては日本協会の体質改善を迫る意見も出たのだ。

結局、これまでもナショナルチームの強化合宿などで、企業側が有形無形のバックアップを行っていることや、今後もこの面では協力を惜しまない、などの点が確認されただけで、新財源を狙ったこの工作は、事実上、白紙に戻った。

日本協会・四つの固定収入源（単位円）

	加盟金	登録金	審判審査料	検定料
昭40	410,000	1,459,100	151,000	1,280,000
昭41	420,000	1,310,100	169,800	1,430,000
昭42	370,000	1,379,600	242,000	1,035,000
昭43	340,000	1,256,200	250,500	1,250,000
昭44	420,000	1,779,728	210,000	1,325,000
昭45	465,000	2,587,953	327,800	2,095,000
昭46	440,000	2,781,900	292,600	1,415,000
昭47	890,000	4,976,000	406,800	2,165,000
昭48	910,000	4,662,600	376,000	2,815,000
昭49(推)	1,190,000	5,140,000	（6月1日現在未発表）	

（注）この特集で示されている数字はすべて、各年度の「日本協会決算報告書」から引用 3頁の別表②内の注釈は編集委員会によるもの

不安定な収入源

ここまでくると、日本協会は、「事業縮少」という悲壮な決意も覚悟しなければならぬ。収入は完全に頭打ちなのだ。

日本体協からの補助金は、競技力向上費165万円(年額)、スポーツ振興金60万円(同)と、毎年ハンを捺したように決まっている。

しかも、消息通は、体協自体の財政難から、この額は減ることはあっても増えることはない、と云う。

そればかりか、神田財務部長（常務理事）を筆頭とする財政スタッフは50年度予算の洗いなおしの結果、日本体協からの補助金を含め、収入不安が500万円にのぼるという悲観材料を示し、完全に「赤信号」を示したのである。

5月17日の全国理事会は、本誌前号既報のとおり、役員協力金の復活によって500万円の徴収を目論み、このほか協賛広告で150万円（一口1万円・150口）の目標をたてている。

弱り目にたたり目といおうか、今春の世界女子選手権アジア予選は、韓国でのAゾーンが一切の経費参加国負担、イスラエルとの決勝が、密室試合となったため支出756万円、収入ゼロという惨々な結果で、47、48年度に貯えた約450万円をはたき出したばかりか、なお500万円近い欠損を生んでしまった。

44年度に一千万円を越す赤字を招いた例があるが、49年度は、それにつぐ損失となって帳簿がしめられたようだ。

（ちなみに、国庫補助は、予選会には一切交付されず、本大会出場についてのみ一人につき往復旅費の3分の2が支給されるだけ、それも最近は12人分が通例。

世界選手権、オリンピックとも今後はアジア予選が必らず課せられるだろうから、男女とも毎回300～500万円の支出はさけられないことになる。）

この49年度の〝へこみ〟を田村会長は、未収金が約250万円あることから、実質的には250万円程度としているが、それにしても、現況ではかなりの負担にちがいはない。

成長への陣痛として理解を

ここ数年、日本協会の発展は自覚しいものがある。これは掛け値なしの評価だ。

事業の総点検も必要ではあろうが、この上昇機運を財政面の力不足でしぼませてしまうのは、あまりにも惜しい。

財務部は、全国連盟代表によって緊急編成した財政委員会と協議しながら、長期的展望に立つ財源開発案を打ち出すとしているが、一方で、すでに内部から拠金することは限界にきている、という声もある。

天井の見えた資金繰りの中で、何から何まで賄うことの難しさは日本協会が大きくなればなるほど強まってくるだろう。

場合によっては競技力向上事業と国際事業を一般会計から切りはなすことも考えなくてはなるまい

しかし、当座の危機突破は、やはり中央、地方を問わず全役員が現情を理解し、この苦難を、さらに斯界が発展する陣痛とうけとめ協力を惜しまぬ姿勢を示すことではあるまいか――。（了）

49年度決算終わる 日本協会の昭和49年度収支決算は、5月末から、日本体協派遣の田沼次郎大河内誠一両公認会計士によって監査をうけていたが、6月6日終了した。（49年度決算は全国代議員会承認後、本誌にも掲載）

男女とも2勝2敗

韓国2強に勝てず 男子

～日韓学生交流～

第9回(女子第4回)日韓学生交流は、6月12日から21日まで全日本学生選抜軍（久保義雄団長ら役員6、男子選手14、女子選手13）が韓国へ遠征して行われ、男女とも2勝2敗の成績で終った。

男子は、今秋に予定されるモントリオール・オリンピックアジア予選を前に、韓国の実力を知る絶好の機会だったが、前半2戦は、この大会に備えて意欲を満たして待ちうけていた円光大、成均館大の両強豪に押し切られ、後半2戦を勝って、辛くも五分の星とした。

全日本学生男子の訪韓は3度目で、最初の第5回大会(昭46)は4勝1分、第7回大会(昭48)は3勝1分1敗だった。

女子は、学生との2試合のほか学生・社会人混成と実業団各1試合をまじえ、出足よく2連勝したが、後半2戦は、韓国ナショナルを中心とした地元チームに敗れた。

これで通算成績は、男子が46戦27勝4分15敗（うち7人制・40戦21勝4分15敗）、女子が18戦9勝1分8敗（すべて7人制）といずれも日本側のリード。

一行は、6月21日無事帰国した。

男子

円光に追撃かわさる

第1戦・円光大との試合は6月13日午後4時30分から裡里(イリ)で行われた。

円光 18（9－6 9－7）13 全日本学生

	【全日本学生】	得	得	【円光】
GK	柴田(法政)	0	0	張
GK	日比(京産大)	0	0	羅
FP	蒲生(中央)	2	0	李
FP	中馬(九産大)	3	3	崔(永)
FP	大熊(中央)	1	4	杜
FP	山本(名城)	3	9	鄭
FP	村田(法政)	2	2	金
FP	菅野(日体)	0	0	崔(炳)
FP	大庭(同志社)	0	0	文
FP	藤本(中央)	0	0	崔(允)
FP	布垣(中京)	0	0	朴
FP	山田(早稲田)	0		

18（4） PT （1） 13

車―金に11点奪わる

第2戦・成均館大との試合は15日午後4時20分からソウル運動場（屋外）で行われた。審判＝若山博(日)、李峯一(韓)

成均館 27（15－4 12－17）21 全日本学生

	【日本】	得	得	【成均】
GK	柴田	0	0	安仁鎬
GK	日比	0	0	姜正炫
FP	丸井	2	4	車聖福
FP	山田	1	7	金成憲
FP	蒲生	4	3	李鍾七
FP	村田	8	0	崔揆鎮
FP	中馬	0	0	張星澤
FP	大熊	1	6	高正奎
FP	山本	1	3	崔昌男
FP	菅野	0	4	白根煜
FP	斉藤	2	0	崔程鏞
FP	布垣	2		

27（6） PT （2） 21

（注）斉藤は日体、丸井は大阪体大の所属

前半なかばに立ち直り

第3戦・清州大との試合は18日午後3時30分から忠北体育館で行われた。審判＝金相益、韓英鎮

全日本学生 25（14－8 11－10）18 清州

	【日本】	得	得	【清州】
GK	柴田	0	0	金明会
GK	日比	0	0	李在勲
FP	大庭	1	0	鄭基薫
FP	山本	6	0	曺圭憲
FP	藤本	1	3	李一教
FP	斉藤	2	1	崔鳳石
FP	丸井	5	9	辛炳翼
FP	菅野	1	5	洪萬善
FP	山田	4	0	辛起植
FP	蒲生	0	0	朴昌奎
FP	村田	2	0	韓太洙
FP	斉藤	2	0	池連鎬

18（4） PT （3） 25

▽その他の出場選手【日】FP布垣（得1）、中馬（得0）

後記　丸井圭仁

清州は韓国特有の2・4ディフェンス。我々もこのシフトにどうにか馴れ得点をあげたが、守りが甘く、清州のバネを活かしたサイドシュート、スカイプレーにゴールを奪われ一進一退をつづけた。

しかし、前半なかばすぎから日本のディフェンスが固まりはじめ斉藤が2分間、5分間とたてつづけに反則退場をとられたあとも、巧く乗り切り、山本の好技でリードを奪えた。

後半はメンバーを組み替えたが1点入れられると、すぐに取り返す確実な試合運びで、優位を保った。

審判のジャッジが、清州に甘く後半だけで4本のPTを日本はとられたが、前半のリードがあったので焦らなかった。

それにしても韓国のディフェンスは、トップ2人が45度シューターに密着するような位置をとって押しあげてくるため、我々はどうしてもハーフライン近くまで退ってボールを廻すようになり、攻めこむタイミングを狂すことがしばしばだった。（FP・大阪体大3年）

後半一気に勝負つける

第4戦（最終戦）・釜山大との試合は19日、釜山の九徳体育館で行われた。審判＝若山博(日)、張裕文(韓)

全日本学生 23（9－7 14－6）13 釜山大

▽その他の出場選手【日】FP藤本、大庭（ともに得0）

（注）第1、2、4戦の後記は次号に掲載。

久保義雄団長（全日本学連理事）**の話**　ピックアップチームのもろさと、単独校のまとまりが対照的に表れたシリーズだった。

韓国側は、なんとしても日本に勝とうという気持ちが強く、各会場とも熱気にあふれていた。

今後のこの大会のありかたについては、韓国内にも、2国間だけの交流は検討すべき時期だ、というムードが芽生えてきているようで、将来は「アジア学生選手権」に拡げたい、という話も非公式ながら出た。

	【日本】	得	得	【釜山】
GK	柴田	0	0	金相泰
GK	日比	0	0	李尚傑
FP	菅野	1	3	朴性培
FP	山本	2	2	李延雄
FP	村田	3	1	白南哲
FP	蒲生	2	0	金名顕
FP	斉藤	2	0	辛光雨
FP	山田	2	2	柳光洙
FP	大熊	3	0	玉唱洙
FP	布垣	3	0	趙昇済
FP	丸井	5	3	崔容安
FP	中馬	0	2	全延彬

13（0） PT （1） 23

力で押してくる韓国

男子・三沢澄コーチの話　最初の2戦は、用兵が総花的であったためプレーがまとまらず、後半は〝二班〟システムで臨み、これが効を奏した。

実力的に追いつかれた感じはしないが、最近の日本のプレーが技巧中心なのに比べ、韓国はストレートな戦法で力感にあふれている負けた試合も、技が力に制されたといえる。

女子

仁川市庁の反撃かわす

第1戦・仁川市庁(実業団)との試合は13日午後6時から仁川体育館で行われた。審判＝若山博(日)韓国側審判名未詳

全日本学生 16（9—6 7—8）14 仁川市庁

【全日本学生】	得		【仁川】	得
長谷川(日体)	0	GK	李太姪	0
鍋田(東女体)	0	GK	崔聖姫	0
藤山(日体)	4	FP	黄分徳	1
林(日体)	2	FP	趙泰順	0
金森(大体大)	0	FP	趙喜順	4
小田(日体)	0	FP	朴妙順	6
橋(東女体)	1	FP	金敬寿	0
山田(東学大)	3	FP	権美子	3
奥野(大体大)	0	FP	任順金	0
安藤(東学大)	3	FP		
赤岸(東女体)	3	FP		
浦崎(中京)	0	FP		
辻(武庫女)	0	FP		
	(16)	PT	(1) (4)	(14)

後記

藤山　聖子

仁川市庁にはナショナルプレーヤーが、朴妙順をはじめ四名おり日本で予測していたチームカラーとはかなりちがっていた。

速攻にも出るしカットインも鋭いものがあった。それにゲームが始まると同時にものすごい応援が始まり、とまどいを覚える者も出た様だった。仁川市庁で目立ったのはポストプレヤーのパス廻しからフェイントをうまく利用してくる展開。

日本は緒戦のせいもあり自分のペースにうまくもっていけず、調子が出るまで時間がかかった。しかし波にのってきてからは速攻、ミドルシュートがよくきまった。

後半はPTによる失点が多く苦しい思いをしたが、仁川のボールに対する集中力やシュートにしても身体全部をつかって射つなど見習うべきプレーがあり、手さきだけのプレーが、いかに通用しないかということを反省させらた。

（FP。日体大4年）

暑さで苦しい展開

第2戦・鳳永女子クとの対戦は15日午後2時からソウル運動場で行われた。審判＝李文植、高炳勲

全日本学生 19（6—5 13—6）11 鳳永女ク

【日本】	得		【鳳永】	得
長谷川	0	GK	鄭守玉	0
鍋田	0	GK	金仁子	0
林	3	FP	朴妙順	3
小田	2	FP	孫寧周	0
山田	7	FP	李英淑	1
橋	1	FP	曹明順	1
藤山	2	FP	金順淑	1
赤岸	0	FP	金明恵	1
浦崎	2	FP	権貞心	0
金森	0	FP	金正淑	1
奥野	0	FP	梁玉姫	3
安藤	2	FP	楊賢順	0
	19	PT	(5) (3)	11

▽その他の出場選手【日】FP辻（得0）【鳳】FP趙泰順、金敬愛（いずれも得0）

「連敗」にも不安なし

オリンピック予選ひかえ

□……今年はオリンピック予選。強敵とみられる韓国は、アジアきっての名コンビといわれる車聖福—金成憲(成均館大)を中心に、いぜん学生が主力とみられており、今回の日韓戦は「アジア予選へ一つの目安になる」（全日本・竹野奉昭監督）ものだった。

全日本学連も、この事情を充分承知で、4人のオリンピック候補をはじめホープを並べた強力なピックアップチームを派遣した。

ところが、いきなり円光、成均館に連敗のニュース。関係者を慌てさせた。

□……そのような"心配"をよそに6月21日、羽田空港へ降りたった選手たちは、さっぱりとした表情。

「日本の上位の単独校なら充分勝てる相手」という大熊昌己主将(中央)にはじまって、日韓戦3年連続出場の村田（法政、オリンピック候補）は「年々、韓国学生の力は落ちている」という。

蒲生(中央、オリンピック候補)も「我々の調子がもう一つ整わずその上、ボールが軽かったこと、久しぶりに炎天下のアウトドアでプレーしたことなど、こちら側に"敗因"があっただけ」と相手の実力は、あまり評価していない。

この他の選手も「やられた」「負けた」という感じはあまりもっていないようで、「ナショナルなら問題はない」と明快だ。

□……しかし、楽観材料ばかりでないことも確か。

三沢澄コーチ(早大監督)は「優秀選手が成均館に固まっており、ここへ円光などの有力プレイヤーを補強すれば、かなりのナショナルができそう。日本に対する研究も充分」とみているし、若山博審判員（北信越学連理事長）も「フットワークと粘り腰を活かして、各選手の"守備面積"が非常に広い。それに力強さがある」と、技巧に走っている日本との違いを指適する。

□……車—金のプレーも相変らずのたくましさ、巧さのようだ。

「車は日本陣営の注目を意識してか、あまり射たず、もっぱらパッサー役。金もサイドよりポストからの攻撃が多かった」（蒲生）そうで、「彼らも大学最後の年、アジア予選には斗志を燃やしてくるだろう」（村田）。

今回対戦の学生勢が主体となって韓国ナショナルが編成されることは間違いなく、それだけに日本選手の強気の帰国談は、関係者の不安をいちおう取り除くものだが全日本・竹野監督は、あくまで慎重に、ソウルで勝瀬幸貞役員（東海学連理事長）が撮ったビデオテープを借りて、そのあとで「結論」を出すそうだ。

（S）

後記　　赤岸恵美子

相手チームは高校生とOGの混成。気温30度という暑さの中、アウトドアでの試合であった。

立ち上がり、日本側の凡ミスと相手側の強引なまでのポストプレーでPTをとられ、5―1までリードされましたが、GK長谷川の好守により追加点を阻み日本側は除々に波に乗ってきた。後半は完全に日本のペースで早いボール展開と速攻などで加点、勝利をおさめた。観衆の熱狂と暑さで前半は苦戦したが、後半は、思い通りのゲームができたといえる。この日は男女とも韓国では実力、人気ともトップのチームで観衆全員が心からの拍手を送っているところなど、日本には見られぬことで、少々うらやましい気もした。

（FP、東女体大4年）

目立つ李相玉の攻撃力

第3戦・忠州工専女子との試合は18日午後2時10分から、忠北体育館で行われた。審判＝若山博（日）、朴千祚(韓)

忠州工専 17（7―10 / 10―4）14 全日本学生

▽その他の出場選手【日】FP浦崎（得0）

後記　　金森　健子

今回の対戦相手で最強といわれる忠州工専。前評判どおり、秀れ

得	【日本】		【忠州】	得
0	鍋田	GK	李栄姫	0
0	長谷川	GK		
0	橋	FP	李性淑	0
2	安藤	FP	金福順	2
5	山田	FP	林秀順	0
1	赤岸	FP	李順南	0
5	藤山	FP	李相玉	10
0	林	FP	朴炳賢	3
1	小田	FP	金栄淑	2
0	金森	FP	呉英愛	0
0	辻	FP		
0	奥野	FP		
14	（1）	PT	（4）	17

た脚力をみせた。

前半開始直後、忠州工専にPTを与えたが、幸いにも得点にはならず、前半4分、藤山のカットインからのシュートがきまり、一点をリードした。しかしその後は忠州の早いプレーに日本ディフェンスがゆさぶられ、押され気味、前半点差をつけられた。

後半もたて続けに得点をゆるし相手のエース・李相玉（ナショナル）をマンツーマンでマークしたが、サイドに走りこまれ、得点された。

しかも日本の攻撃が当りの強い相手守備陣に封ぜられ、4点しか返すことが出来ず、初の敗戦となった。

全般に、相手のプレーはパワーフルで、中でも李相玉のシュート力の強さは目立った。

日本は、後半いちどもペースを握れず、逆転機をつかめなかった

（FP、大阪体大4年）

ボールに対する執念学ぶ

第4戦(最終戦)・韓星女大との試合は19日、釜山の九徳体育館で行われた。審判＝李善行、金広錫

漢城大 16（6―5 / 10―8）13 全日本学生

得	【日本】		【漢城】	得
0	鍋田	GK	金賢淑	0
0	長谷川	GK	呉雪光	0
0	金森	FP	張美静	1
2	山田	FP	姜京宜	8
4	林	FP	朴英淑	1
2	藤山	FP	金淑子	1
0	小田	FP	金玉淑	4
0	安藤	FP	金玉子	1
0	橋	FP	朴錦淑	0
5	赤岸	FP	崔聖淑	0
0	辻	FP	金玉善	0
0	浦崎	FP	房順実	0
13	（1）	PT	（5）	16

▽その他の出場選手【日】FP奥野（得0）【漢】FP李熙淑（得0）

後記　　安藤由美子

体育館は縦32メートル横19メートルという非常に小さな所でしたので、速攻を主とした我々のチームとしては、大変むずかしい試合でした。スローオフしてから目の前にすぐ敵がおり、どのくらいの間隔をとって攻撃したら良いのかが全くわからず相手のペースにのってしまいました。又、韓国のチームは全体的にとっても乱暴なディフェンスをしたり、国がらの違いによるいろいろなアクシデントもあり、国際試合のむずかしさを身にしみて感じさせられました。

我々が大いに学ばなければならないことは、韓国のハンドボールは〝ねばりのハンドボール〟であるということです〟ルーズボールの処理、シュートに対する執念――身を投げうってでも入れようという態度――、プレーをしていながら感心させられました。

後半の2試合に連敗したのも、このボールに対する執着心が、我々とかなりの差があったからだと思います。（FP、東京学芸大3年）

日本の影響うけた〝走り〟

女子・高野亮コーチの話　これまで見聞した韓国女子とは異り、各チームとも非常によく走り、多彩な展開を見せた。

〝走り〟は、明きらかに日本のナショナル、実業団の影響を受けてのもので、秀れたボディコントロールと相まって、今後は、いっそう軽視できぬ存在となろう。

韓国協会は、女子に相当力をかけており、今回のテレビ中継も女子だけだった。

韓国、五輪予選招かず　日韓学生交流の団長で訪韓した久保義雄氏（全日本学連理事）が、6月21日羽田空港で語ったところによれば、韓国は、モントリオールオリンピックアジア予選を招致しないことに決めているという。

日韓高校、今夏ソウルで

昨年、開会直前に休会となった日韓高校交歓スポーツ競技会の再開が正式に決定。8月22日から24日までハンドボール男女など9競技が行われる。ハンドボール代表は男女とも第26回全日本高校選手権優勝校の予定。

アジア予選 進展しない開催地問題

史上初めて男女のハンドボールが行われるモントリオール・オリンピックは、いよいよあと1年後にせまったが、男子アジア予選は、複雑な国際情勢がからんで、いっこうに事態の進展がない。

各国とも財政困難

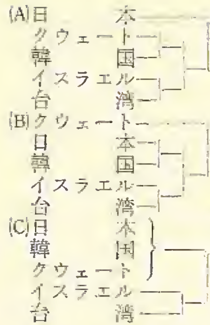
本誌既報のとおり、アジア予選にエントリーしたのは日本のほか韓国、イスラエル、クウェート、台湾。

IHF(国際ハンドボール連盟)は、4月の常務理事会で、5ケ国2回総当りで代表1ケ国を選ぶように指示、各国に対し、予選会の開催を打診した。

これに対し、日本協会は5月17日の全国理事会で、日本への誘致を見送ると決め、他国へ開催をゆだねることとした。

しかし、他の4国も大会期間中参加各国選手団、レフェリー(IHF派遣)、役員の滞在費一切を負担するだけの財政確保が難関となり、本誌が6月10日現在で得た情報では、各国とも、その態度を表明していない。

日本協会提案の組み合せ(3案)



IHFへの回答〆切りは、6月30日までで、なお事態進展のゆうよは残されている、というものの消息通は、大きな前進はあり得ないとみている。

条件つき開催のケースも

IHFが、今回、これまでの権威主義をかなぐり捨て、アジア予選だけは、屋外コートで行ってもよい、としたことから、一部に「台湾立候補説」もあるが、いまのところそれらしい動きはない。

イスラエルとクウェートには国際規模の体育館があるが、それぞれ互いの国の入国に難色がある。

去年のアジア競技大会サッカーで、クウェートイがスラエルとの対戦を拒否しているのも、好ましい材料ではない。

韓国は、今春2月に世界女子予選を開いたばかり、しかもこの時は、全役員が経費負担をして大会を運営したという台所の苦しさだ。

IHFも、こうなることをある程度は予想しているようで、5ケ国に対し、アジア予選に対する意見の添付、提出を求めているが、日本協会・荒川理事長は「往復旅費はもちろん、滞在費も参加国側負担を条件とする国がでてくるのではないか」という。

これは、韓国が世界女子予選の際、日本と台湾に望んで、実行されたことだ。

日本、「総当り」撤回を要求

日本協会の〝辞退〟理由の最大点は、こうした財政問題ではなくイスラエルに対する治安、台湾の入国に関する不安である。

日本協会は、この問題はひとり日本だけのものではなく、各国に関連するとの判断から、IHFに対し、「5ケ国総当り」の撤回を求め、同時に三通りの組み合せ提案(=上掲)も行っている。

これに対するIHFの反応は本誌〆切り(6月20日)までに伝えられていない。遅くとも7月中旬には、すべてが固められるとみられるが、はたしてどのような形式になるか、注目されるところだ。

日本協会・荒川理事長の話　早く予選法式が決まって欲しいが、現状では〝5ケ国集結〟を誘致する国はないだろう。

誘致する国があれば、何処になっても日本は遠征する。

日本提案のうちどれか一つが受け入れられた場合は、イスラエル台湾のからまぬカードを日本で開きたい。

アフリカ予選は11ケ国

IHFはこのほどモントリオール・オリンピックのアフリカ地域予選にエントリーしたのは、11ケ国であると公式発表した。

4月時点では4ケ国程度とみられていたもので、アフリカ地域の加盟20ケ国の約半数が申しこんだことになる。

ミュンヘン予選の時は6ケ国だった。予選は来年2月アルジェリアまたは同4月ナイジェリアで開かれる予定。

また、アメリカ地域予選は、アメリカとアルゼンチンの2ケ国だけがエントリー、ミュンヘン予選に出場したメキシコは不参加。

女子3大陸代表戦開催地はワシントンか

日本協会が得た情報では、モントリオールオリンピック女子に出場する「アジア・アメリカ・アフリカ3大陸代表決定戦」の開催をアメリカ協会が、来年7月ワシントンで開く意志を示しているといわれる。

この試合に出場できるのは、すでに日本(アジア)、アメリカ(アメリカ)、チュニジア(アフリカ)と決められており、日本は今冬の第6回世界選手権(ソ連)で4位内に入れば、自動的にオリンピック出場資格を得られ、「3大陸代表決定戦」に参加する必要はない

全日本男女、本格的な強化体制に

なりをひそめていた男女ナショナルチームが、本舞台を前に本格的な強化体制に入った。

まず、女子が日本実業団リーグ明けの6月16日から7日間、名古屋のブラザー工業体育館に18人の世界選手権候補選手が顔を揃えて、今年度第1回の合宿を行った。

つづいて男子が6月23日から6日間、名古屋の大同製鋼星崎体育館に15人のモントリオールオリンピック候補（第1次）選手が参集、今シーズン最初の合宿。

女子は、すでに今冬の第6回世界選手権（ナショナルエントリーも済ませており、あとは9月ごろに予定される代表選手の選考（人数など未定）を待つのみ。

男子は、肝心のオリンピック予選が具体化していないが、プレ・オリンピック（モントリオールカップ）が4ケ月後に迫っており、コーチ陣もこの大会へ一つの照準をあてているだけに、練習も熱をおびてきた。

なお、男女とも7月中に「昭和50年度ナショナルチーム」の名簿が発表される模様で、女子の世界選手権代表選手、男子のプレオリンピック参加選手はこのなかから選び出されることになる。男子のオリンピックアジア予選代表については、今のところ未定。

12月2日から予選リーグ

世界女子選手権

IHF（国際ハンドボール連盟）は、このほど今冬ソ連で開く第6回世界女子選手権予選リーグの日程を正式に発表した。

予選リーグは参加12ケ国を4ケ国づつ3組に分け（＝本誌130号参照）で争われ、各組上位2ケ国によって決勝リーグが行われる。

また、各組3位で7～9位決定リーグ、各組4位で10～12位決定リーグの行われることも決まった日本の出場する予選リーグA組の日程次のとおり。

▽第1日（12月2日）ルーマニア×ノルウェー、日本×チェコ▽第2日（12月3日）日本×ルーマニア、チェコ×ノルウェー▽第3日（12月5日）日本×ノルウェー、ルーマニア×チェコ＝場所はいずれもウィルニウス市

▽決勝リーグ　12月7、8、9、11、13日（キエフ市）▽7～9位決定及び10～12位決定リーグ　12月7、8、9日（ウィルニウス市）

チェコに代りポーランド

プレ・オリンピック（男子）

モントリオール国際ハンドボール大会（プレオリンピック、9月26日～10月2日）の組織委員会はこのほど、参加を予定していた6ケ国のうち5月にはいりチェコスロバキアが棄権を表明、代ってポーランドに出場の打診をしていることを明らかにした。

なお、各国の選手名簿提出は9月9日と発表されたため、日本協会はこの線にそって選手団（役員3、選手14）の編成作業をすすめる予定。

NHK杯は休会

日本協会は6月21日の月例常務理事会で今年のNHK杯国際試合について協議、来日交渉を進めていたルーマニア（世界1位）との話合いが進展しないなどあって、今年度は休会することを正式に決めた。

NHK杯は、昨年度からNHK側の意向で、国際大会に代えられているもの。

なお、9月6または7日東京体育館で「プレオリンピック壮行試合（男）」を開く計画が進められている。

国体参加資格の統一新見解

日本体協（国体委員会）は、今秋の第30回国体（ハンドボールは四日市市）から年令別採用などを行うが、同時に参加資格（実施要項総則5の5並びに5の8イ）に対する統一見解を6月12日付で発表した。主な点次のとおり。

①通信制高校の生徒は、その高校の所在地からは参加できず、現住所または勤務地から参加する

②外国遠征など国際競技会に参加中のため、予選会に参加できなかった選手は、本大会に参加できない

③団体競技の場合、地区（ブロック）予選会に参加しなかった選手でも、その選手が都道府県予選会に参加していれば、本大会へ参加できる

④団体競技の場合、単独チームが都道府県予選会を通過、地区予選会を前に、他チームから選手を補充することができる。ただしその選手は、都道府県予選会出場選手であること。（同ようなことは、本大会前にも適用できる）

投書欄　明日への提言

役員の兼職撤廃を

機関誌前号に掲載された日本協会専門委員会名簿を見て、ひところより少くなったとはいえ、いぜん、一人何役かの兼務がみられるのは、考えものではないかと思う。

日本協会の歴史もすでに30年以上の歴史を積んでいるハズだし、OBの数も相当なものだろう。

にもかかわらず、一人の人間が、いろいろなパートへ顔を出さなければいけないというのは人材発掘をしないのか、協力体制が整っていないのか、いずれかであろう。

高体連、学連、実連などの名簿が併載されていたら、おそらく〝重復〟はいっそうはげしいと思われる。

特に、技術系、審判系のみさかいなく、名を連ねる傾向がいぜん改まっていないようなのはおかしい。

以前ならばいざ知らず、多くの人材を輩出している現今であれば、選ぶほうも選ぶほうだが引き受ける側にも、責任がある。

神経の行き届いたスタッフ編成を心がけないうちは日本協会は、いつまでも〝マイナー〟から脱け出られまい。

【大阪・一OB・会社役員】

★……投稿歓迎。600字以内、用紙自由。紙上匿名を認めますが原稿末尾に住所、氏名、年令明記のこと。

大同製鋼、湧永破り"3冠"へ船出

日本実業団リーグ・男子

（5月31日～6月22日）

5月末から全国各地で熱戦をくりひろげていた日本実業団リーグ（第16回全日本実業団選手権）は、男子が大同製鋼（愛知）、女子が田村紡績（三重）の優勝で幕を閉じた。

男子は、予想どおり3年連続3冠王を目指す大同製鋼と、打倒・大同に燃える湧永薬品（大阪）が安定したテクニックと、充実の気力で勝ち進み、最終戦で激突。大同が、豪快な攻撃で湧永を制し4年連続優勝を飾るとともに、3年連続の"3冠王"へ好スタートを切った。

個人賞は最多得点選手が2年連続して大江隆夫（三菱レ）、最優秀新人が松本良樹（湧永薬品、中大出）と決まった。

〔勝　敗　表〕

	同	湧	本	崎	景	陽	日	菱	P	勝	分	敗	得	失
①大同製鋼	…	○	○	○	○	○	○	○	14	7	0	0	144	91
②湧永薬品	●	…	○	○	○	○	○	○	12	6	0	1	138	63
③本田技研	●	●	…	△	○	○	○	○	9	4	1	2	129	102
④大崎電気	●	●	△	…	●	○	○	○	7	3	1	3	123	86
⑤三　景	●	●	●	○	…	●	○	○	6	3	0	4	110	120
⑥三陽商会	●	●	●	●	○	…	○	○	6	3	0	4	87	156
⑦日新製鋼	●	●	●	●	●	●	…	○	2	1	0	6	93	139
⑧三菱レイ	●	●	●	●	●	●	●	…	0	0	0	7	70	137

第1週

5月31、6月1日の両日名古屋の愛知県体育館と山口・徳山市体育館で、あわせて8試合が行われた。

▽第1日・名古屋

三景（東京）13（8－5／5－3）8 大崎電気（埼玉）

得	【三景】		【大崎】	得
0	佐藤	GK	岩下	0
0	小林	GK		
5	佐々木	FP	飯田	1
2	内藤	FP	東	1
2	高梨	FP	佐藤	0
2	加藤	FP	井手	1
0	山村	FP	小松原	1
2	川島	FP	橋本	2
0	榊	FP	坂口	1
0	塩田	FP	前渕	1
		FP	新田	0
		FP	椿原	0
13	(3)	PT	(0)	8

（審・西川、河野）

○……復調を伝えられる大崎だがパスミスで好機をつぶしたばかりか、それを拾って攻めこむ三景の巧みな試合運びに、じわじわと点差を開かれて、緒戦を落とした。

三景もけしてよい出来ではなかったが、佐々木（全日本）の絶妙な球捌きで大崎ディフェンスをゆさぶり突破口としていた（鈴木淳蔵）

大同製鋼（愛知）24（12－2／12－6）8 三陽商会（東京）

○……大同は王者らしい試合ぶりで三陽を押しつぶした。

立ちあがりから、藤中（全日本）の連続4ゴールをはじめ相手ミスで得た速攻機を柳川弟、松原（ともに全日本）が活かして20分には7－0と差をつけた。

三陽は後半になってどうにかプレーが落ちつき互角に亘りあう場面もあった。（西川勤也）

得	【大同】		【三陽】	得
0	柳川兄	GK	吉近	0
0	倉谷	GK		
9	藤中	FP	近森	1
6	柳川弟	FP	田中	1
1	中井	FP	小川	1
3	松原	FP	佐野	2
2	花輪	FP	竹村	0
0	北村	FP	稲木	2
2	守田	FP	緒方	0
0	野田	FP	石原	0
1	中本	FP	梅屋	0
0	清崎	FP	大杉	1
24	(2)	PT	(0)	8

（審・浅野、川島）

▽徳山

湧永薬品（大阪）22（12－6／10－6）12 日新製鋼（呉〔広島〕）

得	【湧永】		【日新】	得
0	今井	GK	三田	0
0	福井	GK	佐野	0
2	高橋	FP	松木	0
4	津川	FP	村川	1
6	穂積	FP	吹上	3
3	松本	FP	下茂	1
6	木野	FP	脇若	3
0	森	FP	越智	1
1	戸田	FP	沖谷	0
0	大山	FP	古田	3
0	菅	FP	関本	0
0	松井	FP	徳田	0
22	(1)	PT	(1)	12

（審・横瀬、星井）

○……湧永は柔軟な攻撃展開で確実にポイント、なんとか食い下ろうとする日新を引きはなしていった。

日新は立ちあがり5分間に11本のシュートを放ったが、得点に結びつかず、16分3－4までであとは、湧永に主導権を握られた。

湧永はGK福井が評判どおりの固い守りを見せていた。

本田技研鈴鹿（三重）20（10－6／10－6）12 三菱レイヨン大竹（広島）

得	【本田】		【三菱】	得
0	細野	GK	藤本	0
0	牧原	GK	中嶋	0
5	田上	FP	善本	2
1	柳	FP	大江	6
4	長谷川	FP	山川	2
1	喜井	FP	岩本	0
4	佐藤	FP	武田	0
4	新実	FP	重村	2
1	金子	FP	末広	0
0	矢野	FP	岡村	0
0	勝田	FP	池田	0
0	宮川	FP	田中	0
20	(1)	PT	(2)	12

○……激しい動きの試合で20分6－6と互角に進んだ。

しかし本田はこのあと守りを固める一方、4点を連取、優位に立った。

後半、三菱は7分9－11まで迫ったが、本田は再び得意の直線攻撃を爆発させ8分から1分おきに連続6ゴール、相手の気勢を完全にそいだ。

三陽、三景破る金星

▽第2日・名古屋

三陽商会 18（7－9／11－5）14 三景

○……大波乱といえた。

劣勢の三陽は後半15分あたりから捨て身の攻撃を見せたのが成功。佐野の連続3得点などで22分14－14に追いつき23分田中が豪快なロングを決めて逆転、そのあと2点を加えて三景を突き放した。

得	【三陽】		【三景】	得
0	吉近	GK	佐藤	0
		GK	小林	0
3	近森	FP	佐々木	4
4	田中	FP	内藤	0
3	小川	FP	高梨	1
5	佐野	FP	加藤	3
0	竹村	FP	山村	3
2	稲木	FP	川島	3
1	緒方	FP	榊	0
0	石原	FP	武内	0
0	梅屋	FP	飯島	0
0	大杉	FP	塩川	0
18	(1)	PT	(1)	14

（審・浅川、河野）

三景は残り3分間に9本のシュートを飛ばすなど必死に反撃したが、三陽もGK吉近の好技で防ぎ切った。

大同製鋼 17（8－5／9－8）13 大崎電気

得	【大同】		【大崎】	得
0	柳川兄	GK	岩下	0
0	倉谷	GK	福本	0
0	花輪	FP	飯田	3
2	松原	FP	小松原	2
1	中井	FP	井手	0
3	柳川弟	FP	橋本	2
3	藤中	FP	東	3
7	北村	FP	佐藤	0
1	野田	FP	坂口	0
0	守田	FP	前渕	3
0	中本	FP	新田	0
0	清崎	FP	椿原	0
17	(2)	PT	(1)	13

（審・奥村、浅田）

○……大崎は前半10分3－1と先行したが、地力に優る大同は20分4－4に追いつくや、中井（全日本）、藤中であっという間にリードを奪い、そのペースを後半に持ちこんで15分14－8と安全圏。

大崎も最後まで試合を捨てず追いかけたが、大同ディフェンスに要所をおさえこまれ、詰め寄るところまではいかなかった。（鈴木）

▽徳山

湧永薬品 23（9－1／14－4）5 三菱レイヨン大竹

【三菱】

	選手	得
GK	藤本	0
GK	中嶋	0
FP	岩本	0
FP	大江	5
FP	岡村	0
FP	山川	0
FP	善本	0
FP	田山	0
FP	武田	0
FP	重村	0
FP	末広	0
FP	沖重	0

（審・青木・片山）

【湧永】

	選手	得
GK	今井	0
GK	福井	0
FP	戸田	1
FP	高橋	3
FP	木野	2
FP	森	3
FP	穂積	4
FP	津川	4
FP	松本	6
FP	菅	0
FP	大山	0

23（0）PT（1）5

○……湧永がめずらしく立ちあがらからスパート、三菱は防戦一方となり9－0とはなされた前半26分、大江がやっと17点を返した。

後半も湧永の一方的な試合となり、戸田の好リードから新人・松木が果敢なプレーをみせて点差を開き15分14－4、さらに容しゃない猛攻で得点を重ね、三菱はつけいるスキがなかった。（森本浩）

本田技研鈴鹿 17（8－6／9－6）12 日新製鋼呉

【日新】

	選手	得
GK	三田	0
GK	佐野	0
FP	村川	1
FP	松木	2
FP	下茂	2
FP	脇若	2
FP	吉田	1
FP	越智	1
FP	沖谷	0
FP	関本	0
FP	吹上	3
FP	徳田	0

（審・横瀬・岡村）

【本田】

	選手	得
GK	細野	0
GK	牧原	0
FP	田上	3
FP	長谷川	3
FP	柳	2
FP	佐藤	4
FP	新実	3
FP	喜井	1
FP	金子	0
FP	勝田	0
FP	矢野	1
FP	宮川	0

17（0）PT（2）13

○……本田は15分までに5－0とリードした気のゆるみからか、そのあと漫然と試合を進めたため前半25分6－6、後半2分8－8と反撃された。

しかし、後半8分のPT（佐藤＝全日本）を口火に4点連取で主導権は手ばなさなかった。日新は終始気力のこもったプレーで好感がもてた。（西本利治）

（個人得点5傑・第1週現在）①藤中（大同）16②大江（三菱）11③穂積（湧永）10④柳川弟（大同）、松本（湧永）、佐々木（三景）各9

第2週

湧永、本田を押し切る

6月7、8日の両日東京都下調布市の東京重機工業体育館と広島・呉市体育館で、あわせて8試合が行われた。

▽第1日・調布

湧永薬品 16（10－4／6－7）11 大崎電気

【大崎】

	選手	得
GK	岩下	0
GK	福本	0
FP	飯田	2
FP	小松原	1
FP	佐藤	1
FP	東	3
FP	井手	1
FP	橋本	1
FP	坂口	1
FP	前渕	1
FP	新田	0
FP	椿原	0

【湧永】

	選手	得
GK	今井	0
GK	福井	0
FP	津川	5
FP	穂積	5
FP	木野	1
FP	高橋	3
FP	森	0
FP	戸田	1
FP	松本	0
FP	大山	0
FP	松井	0
FP	菅	0

15（3）PT（0）11

○……実力の接近した試合で勝負を色分けるのはミスの多少だ。

この大会でも男女を問わず、このケースが圧倒的に多い。

大崎は、全日本の王座に君臨した頃、60分間ムダなプレーを一つも見せなかった。その完璧ぶりは驚異的でさえあった。今はどうだ。凡失から相手につけこまれる。湧永の楽勝だった。（杉山 茂）

本田技研鈴鹿 30（17－6／13－9）15 三陽商会

【三陽】

	選手	得
GK	吉近	0
FP	近森	3
FP	佐野	6
FP	小川	1
FP	田中	3
FP	稲木	0
FP	竹村	0
FP	緒方	0
FP	石原	2
FP	梅屋	0
FP	大杉	0

【本田】

	選手	得
GK	細野	0
GK	牧原	0
FP	佐藤	2
FP	田上	6
FP	新実	3
FP	柳	6
FP	長谷川	2
FP	喜井	4
FP	勝田	1
FP	矢野	2
FP	金子	4
FP	宮川	0

30（1）PT（1）15

○……本田のよい面がすべて出たスピード豊かな直線攻撃は豪快そのもの。個人技と組織プレーの使い分けも満点。当然守りの動きもよいことになる。

三陽は佐野の奮戦が目立つが、全般的に近森の配球力を活かし切るだけの力がまだない。激情家の近森は不満そうな表情をみせるがことを急いではなるまい。（杉山）

▽呉

日新製鋼呉 13（6－6／7－4）10 三菱レイヨン大竹

【三菱】

	選手	得
GK	藤本	0
GK	中嶋	0
FP	中島	0
FP	善本	2
FP	大江	7
FP	山川	0
FP	岩本	1
FP	岡本	0
FP	武田	0
FP	重村	0
FP	末広	0
FP	沖重	0

（審・上田・東）

【日新】

	選手	得
GK	三田	0
GK	佐野	0
FP	松木	1
FP	吹上	1
FP	下茂	2
FP	脇若	6
FP	吉田	1
FP	越智	0
FP	村川	2
FP	沖本	0
FP	関本	0
FP	徳田	0

13（3）PT（2）10

○……互角の戦況から日新は後半立ちあがりにリズムをつかんだ。

ディフェンスを固めるとともに吹上、村川、新人・脇若（早大）が連続得点し、9分9－6とリード。15分1点差に詰め寄られたものの、すぐにPTと村川のゴールで優位を保ち、大江を軸に食いさがろうとする三菱を振り切った。（中国新聞戦評から）

大同製鋼 22（10－7／12－8）15 三景

【三景】

	選手	得
GK	佐藤	0
GK	小林	0
FP	山村	3
FP	川島	4
FP	加藤	4
FP	高梨	1
FP	内藤	0
FP	佐々木	3
FP	榊	0
FP	塩田	0
FP	武内	0
FP	飯島	0

（審・荒谷・東）

【大同】

	選手	得
GK	柳川兄	0
GK	倉谷	0
FP	柳川弟	4
FP	花輪	4
FP	松原	6
FP	野田	1
FP	中井	2
FP	藤中	4
FP	北村	0
FP	守田	0
FP	中本	1
FP	清崎	0

22（2）PT（1）15

○……大同の先行を三景が追いあげ13分4－4、優勝候補同士らしい白熱戦となった。

しかし、大同の速いパスワークに三景守備陣は遅れ気味となり、中央、サイドから射ち分けられ点差が開いた。

後半、三景は15分13－15まで追いこんだが、大同は余裕を残し、終盤再び猛攻、快勝した（東昌弘）

▽第2日・調布

大崎電気 32（15－7／17－2）9 三陽商会

【三陽】

	選手	得
GK	吉近	0
FP	近森	2
FP	田中	1
FP	小川	0
FP	佐野	4
FP	竹村	0
FP	稲木	0
FP	緒方	2
FP	石原	0
FP	梅屋	0

【大崎】

	選手	得
GK	岩下	0
GK	福本	0
FP	東	0
FP	佐藤	7
FP	井手	2
FP	小松原	4
FP	飯田	4
FP	橋本	2
FP	坂口	3
FP	前渕	9
FP	椿原	1
FP	新田	0

32（2）PT（2）9

○……大崎はGK岩下の速いパスアウトから帰陣の遅い三陽ディフェンスを突破して速攻を成功させ、久々に発らつとした試合ぶりをみせた。

三陽も序盤はPTを有効に使って先行する場面もあったが、しだいに動きが鈍くなり、後半10分8－20と開かれ、戦意をなくしてしまった。

湧永薬品 16（7－2／9－5）7 本田技研鈴鹿

【本田】

	選手	得
GK	細野	0
GK	牧原	0
FP	佐藤	1
FP	柳	1
FP	田上	4
FP	長谷川	0
FP	新実	0
FP	喜井	1
FP	金子	0
FP	矢野	0
FP	勝田	0
FP	宮川	0

【湧永】

	選手	得
GK	福井	0
GK	今井	0
FP	高橋	5
FP	津川	3
FP	戸田	2
FP	木野	5
FP	穂積	1
FP	森	0
FP	松本	0
FP	大山	0
FP	菅	0

16（2）PT（1）7

○……本田は田上－柳のコンビ攻撃で好調なスタートを切ったが、しだいに湧永守備陣の速いつぶしに動きがとれなくなり、単調なシュートが多くなった。

守りの固まった湧永は木野（全日本）を中心に多彩な攻撃でポイントをあげる老巧な試合運びで勝利を確実に手中におさめた。本田のもろさが出た一戦。（青木敬子）

▽呉

三景 28（12－7／16－10）17 日新製鋼呉

	【日新】	得
GK	三田	0
GK	佐野	0
FP	村川	1
FP	吹上	1
FP	下茂	6
FP	松木	0
FP	脇若	3
FP	吉田	4
FP	越智	2
FP	関本	0
FP	沖[illegible]	0
FP	徳田	0

	【三景】	得
GK	佐藤	0
GK	小林	0
FP	佐々木	5
FP	山村	1
FP	内藤	3
FP	川島	6
FP	高梨	6
FP	加藤	2
FP	榊	1
FP	塩田	0
FP	武内	3
FP	飯島	0

（審・平田 荒谷）

28（2）PT（4）17

○……三景がお家芸のコンビネーションプレーを随所に発揮し完勝
前半9分4－4と追いつかれた三景は加藤が中央から決めて波にのり、以後も速い展開からゴールを割り得点差を開いた。
日新は三景の速いパスワークについていけず、おまけにパスミスが重なってしまい、勝ち目はなかった。
（中国新聞戦評から）

大同製鋼 23（10－5、13－10）15 三菱レイヨン大竹

	【三菱】	得
GK	藤木	0
GK	中嶋	0
FP	大江	8
FP	岩本	3
FP	山川	0
FP	岡村	0
FP	善本	2
FP	田中	1
FP	武田	1
FP	重村	0
FP	末広	0
FP	沖重	0

	【大同】	得
GK	柳川兄	0
GK	倉谷	0
FP	中井	2
FP	藤中	0
FP	松原	4
FP	花輪	5
FP	柳川弟	5
FP	野田	2
FP	北村	3
FP	守田	1
FP	中本	0
FP	清崎	1

（審・上田 東）

23（2）PT（2）15

○……前半10分2－1と互角だったが、三菱が大江のドリブル・フェイント以外にこれといった突破力がないのに比べ、大同は、松原柳川弟の速攻、中井のミドルなどを主武器に多彩な攻めで点差を拡げ、後半15分18－9。
三菱も最後まで捨てず健斗したが総合力の差がはっきりしすぎていた。（荒谷拓三）

（個人得点5傑・第3週現在）①大江（三菱）26 ②藤中（大同）20 ③柳川弟（大同）、田上（本田）各18 ⑤穂積（湧永）、佐野（三陽）各17

本田、前半のリード守れず

第 3 週

6月14、15の両日、横浜市の平沼記念体育館、岐阜県民体育館、京都府立体育館、四日市市緑地公園体育館、名古屋市体育館であわせて8試合が行われた。

▽第1日・横浜

三景 16（8－3、8－6）9 三菱レイヨン大竹

	【三菱】	得
GK	藤木	0
GK	中嶋	0
FP	大江	5
FP	田中	0
FP	山川	1
FP	岡村	0
FP	重村	0
FP	岩本	2
FP	善本	0
FP	武田	1
FP	池田	0
FP	末広	0

	【三景】	得
GK	佐藤	0
GK	小林	0
FP	佐々木	3
FP	内藤	0
FP	高梨	1
FP	加藤	4
FP	山村	3
FP	川島	4
FP	榊	0
FP	塩田	1
FP	武内	0
FP	飯島	0

（審・佐分 藤原）

16（3）PT（2）9

○……互いにさぐりあいののち先行したのは三景。4点連取で優位に立った。三菱も15分PT（大江）から追撃、20分3－4としたが、三景はそのあと速攻を決めて主導権をキープ、後半は加藤、川島らの活躍で12分13－4と差をつけ大勢を決めた。三菱もひるまず追いかけたが15分8－13までで粘り切れなかった。（佐分正典）

湧永薬品 30（10－2、20－1）3 三陽商会

	【三陽】	得
GK	吉近	0
FP	佐野	1
FP	小川	0
FP	田中	1
FP	稲木	1
FP	竹村	0
FP	近森	1
FP	緒方	0
FP	石原	0
FP	梅屋	0
FP	大杉	0

	【湧永】	得
GK	今井	0
GK	福井	0
FP	木野	5
FP	高橋	5
FP	津川	1
FP	穂積	7
FP	森	2
FP	戸田	5
FP	大山	1
FP	菅	0
FP	松本	4
FP	松井	0

（審・栗城 内田）

30（2）PT（0）3

○……三陽は30秒田中のミドルで威勢よくとび出したが、湧永は戸田、木野の好リードからすぐに盛り返し15分7－1と力の差をみせつけた。
後半も、技術、体力に優る湧永が固いディフェンスから速攻を連発、たてつづけに10点をもぎとった。三陽は、相手の気力に圧倒されつけこむスキがなかった（佐分）

▽岐阜

大崎電気 20（9－3、11－10）13 日新製鋼呉

	【日新】	得
CK	三田	0
CK	佐野	0
FP	吹上	0
FP	村川	0
FP	松木	0
FP	下茂	6
FP	脇若	1
FP	吉田	2
FP	越智	1
FP	関本	0
FP	沖谷	0
FP	徳田	3

	【大崎】	得
CK	岩下	0
CK	福本	0
FP	東	0
FP	佐藤	1
FP	小松原	3
FP	井手	2
FP	橋本	3
FP	飯田	5
FP	坂口	2
FP	前渕	3
FP	新田	0
FP	椿原	1

20（3）PT（2）13

○……キャリア豊かな大崎FP陣は、前半の好機を確実にものにし主導権を握った。日新は後半鋭い攻撃を見せたが時遅かった。

▽京都

大同製鋼 18（7－8、11－8）16 本田技研鈴鹿

	【本田】	得
GK	細野	0
GK	牧原	0
FP	佐藤	2
FP	新実	2
FP	田上	5
FP	柳	1
FP	長谷川	4
FP	喜井	2
FP	勝田	0
FP	金子	0
FP	宮川	0
FP	矢野	0

	【大同】	得
GK	柳川兄	0
GK	倉谷	0
FP	中井	5
FP	柳川弟	7
FP	花輪	1
FP	藤中	3
FP	松原	0
FP	北村	2
FP	野田	0
FP	守田	0
FP	大原	0
FP	中木	0

（審・寺村 藤本）

18（0）PT（1）16

○……前半15分大同が6－3とリード、そのまま点差を拡げるかと思われたが、本田は田上の活躍で反撃の糸口をつかみ20分6－6から気に逆転した。
大同もすぐ反撃して後半13分11－11、さらに15分中井（全日本）で先行した大同は、柳川弟（全日本）が連続3ゴールをたたみかけ20分15－11と開き落ちついた。好試合。

▽第2日・横浜

三陽商会 14（6－4、8－8）12 三菱レイヨン大竹

	【三菱】	得
GK	藤本	0
GK	中嶋	0
FP	田中	0
FP	善本	4
FP	岡村	1
FP	岩本	0
FP	大江	4
FP	山川	1
FP	重村	2
FP	武田	0
FP	末広	0
FP	大林	0

	【三陽】	得
GK	吉近	0
FP	近森	4
FP	佐野	7
FP	小川	0
FP	田中	3
FP	竹村	0
FP	稲木	0
FP	緒方	0
FP	石原	0
FP	梅屋	0
FP	大杉	0

（審・内川 藤原）

14（0）PT（1）12

○……後半なかばをすぎて、にわかに熱をおび、好展開となった。
先行を許していた三菱は9－11から大江が巧技を連続させ同点、23分善本が押しこんで一気に逆転し、試合の流れを変えたとみえた。
しかし、残り5分三陽は佐野で追いついたあと、近森監督自からFTとポストプレーを決め、土たん場で〝勝利〟を奪いかえした。（杉山）

湧永薬品 18（8－5、10－3）8 三景

	【三景】	得
GK	佐藤	0
GK	小林	0
FP	佐々木	3
FP	内藤	2
FP	高梨	1
FP	川島	1
FP	山村	1
FP	加藤	0
FP	榊	0
FP	武内	0
FP	飯島	0
FP	佐藤	0

	【湧永】	得
GK	福井	0
GK	今井	0
FP	松本	3
FP	高橋	3
FP	穂積	2
FP	津川	4
FP	戸田	1
FP	木野	4
FP	森	1
FP	大山	0
FP	菅	0
FP	松井	0

（審・栗城 内田）

18（2）PT（2）8

○……好・不調の明暗がはっきり
湧永は、若手のプレーに精彩があり、特に前半22分、松本が左ラインぞいに単身持ちこんだ速攻は近来にない快走で印象に残った。GK福井の堅守も光る。
三景が互角だったのは前半18分4－4まで。そのあとはパスが乱れ、得意の組織攻撃を発揮できずに終った。（杉山）

▽四日市

本田技研鈴鹿 11（4－8、7－3）11 大崎電気
引き分け

○……本田は序盤パスミスを拾われて15分1－4、その後も立ち直れず後半11分5－11と苦戦。
しかし、大崎守備陣はこの点差を活かすことができず、15分以降

位置	【大崎】	得	【本田】	得
GK	岩下	0	細野	0
GK	福本	0	牧原	0
FP	小松原	0	佐藤	4
FP	井手	0	田上	2
FP	東	3	新実	1
FP	橋本	2	柳	1
FP	坂口	0	長谷川	0
FP	飯田	4	喜井	1
FP	前渕	2	勝田	0
FP	佐藤	0	矢野	2
FP	椿原	0	金子	0
FP	新田	0	宮川	0

（審・朱宮 西川）

11（1）PT（0）11

佐藤のダイナミックなシュートを中心とした本田の反撃を許し、2811—11分とされ引き分けた。両チームともプレーに慎重さが欲しい（宇尾野）

▽名古屋

大同製鋼 23（11—5, 12—6）11 日新製鋼呉

位置	【日新】	得	【大同】	得
GK	三田	0	柳川弟	0
GK	佐野	0	倉谷	0
FP	松木	0	藤中	0
FP	村川	0	中井	4
FP	吹上	0	松原	1
FP	下茂	3	花輪	2
FP	脇若	0	北村	5
FP	吉田	2	柳川弟	4
FP	越智	5	野田	0
FP	徳田	1	守田	2
FP	沖本	0	大原	4
FP	関本	0	中本	1

（審・浅野 河野）

23（1）PT（1）11

〇……大同は中井のロングと北村の活躍で先行したが、何時になくパスの失敗がみられ、日新の逆襲をうけて、前半20分までは思うよろに点差をつけられなかった。

そのあと大同は若手を繰り出す余裕をみせ快勝したが、日新も一試合ごとにその力を引き上げており今後の活躍が楽しみだ。

湧永、木野の負傷欠場響く

6月21、22の両日、大阪市浪速区の市立千島体育館で、あわせて4試合を行い全日程を終了した。

第5週

▽第1日

大崎電気 28（19—3, 9—4）7 三菱レイヨン大竹

位置	【三菱】	得	【大崎】	得
GK	藤本	0	岩下	0
GK	中嶋	0	福本	0
FP	岩木	0	井手	5
FP	山川	2	佐藤	2
FP	末広	0	東	2
FP	善本	2	飯田	3
FP	岡村	0	小松原	2
FP	重村	1	坂口	5
FP	武田	2	前渕	3
FP	田中	0	橋本	1
FP	池田	0	武藤	4
FP			椿原	1

（審・山本 光島）

28（3）PT（2）7

〇……大崎の快勝。立ち上り1分飯田のPTで先行した大崎は4分東、5分には飯田が強シュートを決めてあっさり3—0。そして15分すぎにも佐藤、井出らが甘い三菱ディフェンスを簡単に突破して前半で9—4と大勢を決めてしまった。

リードオフマン大江を欠く三菱は、ディフェンスがもろい上に攻撃もムリなパスが目立ち、最後まで大崎守備陣を崩せないまま。とうとう白星なしで終った。

（小山敏昭・共同通信大阪運動部）

本田技研鈴鹿 28（16—7, 12—9）16 三景

位置	【三景】	得	【本田】	得
GK	佐藤	0	牧原	0
GK	小林	0	細野	0
FP	佐々木	2	勝田	0
FP	内藤	0	佐藤	9
FP	高梨	0	喜井	6
FP	加藤	4	田上	3
FP	山村	8	長谷川	2
FP	川島	2	柳	4
FP	榊	0	新実	3
FP	塩田	0	宮川	0
FP	武内	0	金子	0
FP	飯島	0	矢野	1

（審・望月 藤井）

28（1）PT（2）16

〇……本田が力で三景をねじふせた。先手をとったのは三景だが、しだいに本田が持ち味の豪快なプレーを披露、9、11分佐藤がたて続けに中央から強烈なジャンプシュートを決めて逆転、さらに新実のポスト、喜井のジャンプシュートで気落ちした三景を突き放した。

三景は力の本田のペースにはまり、得意のコンビネーションプレーが最後まで見られなかった。

（小山敏昭）

▽第2日（＝最終日）

三陽商会 19（10—7, 9—7）14 日新製鋼呉

位置	【日新】	得	【三陽】	得
GK	三田	0	吉近	1
GK	佐野	0		
FP	下茂	2	佐野	3
FP	吹上	1	小川	4
FP	村川	2	近森	3
FP	脇若	4	田中	3
FP	吉田	2	竹村	0
FP	越智	2	緒方	2
FP	松本	0	稲木	2
FP	徳田	1	石原	0
FP	沖本	0	梅屋	0
FP	関本	0	大杉	1

（審・丸岡 光島）

19（0）PT（1）14

〇……後半早々、日新が越智、吉田のシュートで9—とした時、試合は一気に盛り上った。

日新はここで、入特戦を免れようと物すごい気迫をみせた。だが攻撃だけに気をとられ、肝心のディフェンスに穴をつくってしまった。

三陽はこの穴を早いパスでつき田中、小川が連続得点してリード18分すぎ日新・越智の退場の間に若手の緒方が加点し勝負をつけた

（小山敏昭）

大同製鋼 17（9—9, 8—4）13 湧永薬品

位置	【湧永】	得	【大同】	得
GK	福井	0	柳川兄	0
GK	今井	0	倉谷	0
FP	戸田	0	藤中	3
FP	高橋	1	中井	3
FP	森	2	柳川弟	3
FP	津川	3	花輪	3
FP	穂積	7	松原	0
FP	松本	0	野田	0
FP	菅	0	北村	3
FP	大山	0	中本	0
FP	松井	0	守田	0
FP			大原	2

（審・山本 新村）

17（2）PT（0）13

〇……この試合を目標に調整してきた湧永にとって、3日前の練習で右足靱帯を負傷したエース木野の欠場ほどこたえたものはあるまい。

17—3。4点差。ゲーム内容からも木野さえいれば、強豪・大同の4連覇を阻めたにちがいない。そういう意味では、大同の勝利は幸運だったとも云える。

〇……スタートは両チーム固くなりパスミスが多く、一進一退のゲーム運びがつづいた。

しかし、シュート力で優る大同は18分中井が豪快なジャンプシュート、19分柳川弟の速攻で5—3とリードを奪った。

そして前半終了間ぎわに藤中がFTから、花輪もポストから加点し、8—4と優位に立った。

〇……しかし後半に入ると湧永も津川、穂積の積極的な攻撃、ベテラン森、高橋の巧味のあるコンビネーションプレーで大同ゴールに迫った。

ところが、決定力があと一つでなかなか点差を詰められない。いい形のシュートに結びつける〝つなぎ役〟木野の欠場がここでも響いた。

ホイッスル直前、穂積が連続得点し、場内をわかせたが、前半のハンデは、最後まで取り戻せなかった。

（小山敏昭）

I・H・F審判会に2名派遣

日本協会は6月21日の月例常務理事会で、7月20日からシッタード（オランダ）で開かれる「第15回IHF審判会議（講習会）」へ2名の審判員を派遣することに決めた。6月中に人選される。

～表彰選手～

・最多得点選手
大江　隆夫（三菱）

・最優秀新人
松本　良樹（湧永）

・ベストセブン

GK	福井	秀人	（湧永）
FP	藤中	憲二	（大同）
	中井	武三	（大同）
	柳川	実	（大同）
	木野	実	（湧永）
	穂積	豊彦	（湧永）
	佐藤	要二	（本田）

～個人得点10傑～

（本誌調べ）

①	大江　隆夫	（三菱）	35
②	穂積　豊彦	（湧永）	33
③	柳川　実	（大同）	32
④	田上　敬三	（本田）	28
⑤	佐野　文彦	（三陽）	27
⑥	藤中　憲二	（大同）	26
⑥	佐藤　要二	（本田）	26
⑧	津川　昭	（湧永）	24
⑨	木野　実	（湧永）	23
⑨	加藤　正博	（三景）	23
⑨	山村　佳生	（三景）	23

田村紡、立石降し3度目の栄冠（9年ぶり）

日本実業団リーグ・女子

（5月23日～6月15日）

オープニングシリーズで3連勝した田村紡（三重）と立石電機山鹿（熊本）が、その勢いにのって、好調な試合をつづけ、最終戦で両者対決という願ってもない盛りあがり。

地元の声援に元気づいた田村紡は前半巧みにリードを奪い、立石必死の反撃をかわし、9年ぶり3度目の優勝を飾った。

連覇を狙った東京重機（東京）は主戦GKの負傷がひびき序盤戦で優勝争いから脱落。

有力とみられた日本ビクター（茨城）も精彩を欠いた。

個人賞は最多得点選手が松下仁美（田村紡）、最優秀新人が池渕澄江（立石電機、大谷高出）と決まった。

〔勝敗表〕

	田	立	ビ	ブ	東	大	ム	日	P	勝	分	敗	得	失
①田村紡	…	○	○	○	○	○	○	○	14	7	0	0	101	52
②立石電機	●	…	○	○	○	○	○	○	12	6	0	1	97	48
③ビクター	●	●	…	○	△	○	○	○	9	4	1	2	66	47
④ブラザー	●	●	●	…	○	○	○	○	8	4	0	3	66	65
⑤東京重機	●	●	△	●	…	○	○	○	7	3	1	3	83	86
⑥大崎電気	●	●	●	●	●	…	○	○	4	2	0	5	43	65
⑦ムネカタ	●	●	●	●	●	●	…	○	1	1	0	6	40	85
⑧日立栃木	●	●	●	●	●	●	●	…	0	0	0	7	43	91

第1週

5月23、24、25日の3日間、宇都宮の栃木県営体育館と熊本市体育館で、あわせて試合が行われた。

▽第1日・宇都宮

田村紡（三重）15（9－5／6－3）8 日立栃木（栃木）

得	【田村】		【日立】	得
0	久保	GK	条谷	0
0	山本	GK	本城	0
1	沖	FP	鈴井	0
1	三毛		晴山	1
5	横山		小山	1
5	和久井		大岩	0
0	金田	（審・森 勝山）	桜庭	2
1	松下		田村	0
2	鈴木		鈴木	2
0	河田		山井	0
0	林		小根沢	1
0	笠		藤田	1
15	(0)	PT	(0)	8

○……田村紡は立ちあがりから動きの堅い日立陣に攻めいっていきなり7点を連取、機先を制した。

日立も10分すぎから速攻で追いあげ、GK条谷の堅守もあって点差をつめ後半10分には7－10とした。

しかし余裕を残す田村紡は三毛の好リードから終盤再び加点、日立を突き放した。（山下勝司）

日本ビクター（茨城）11（7－1／4－2）3 東北ムネカタ（福島）

得	【ムネ】		【日ビ】	得
0	藁谷	GK	渡辺	0
0	熱海	GK	鈴木	0
2	後藤	FP	蓮見	0
0	遠藤		高野	2
0	有賀		額賀	3
0	細谷		加藤	3
1	鈴木	（審・山下 高橋）	小島	0
0	清水		斉藤	2
0	本郷		穂積	1
0	近内		染谷	0
0	佐藤		滝本	0
0	郷		池田	0
3	(2)	PT	(2)	11

○……前半10分まで両チームとも無得点だったが、ビクターは11分斉藤のゴールで先行してから本来の調子を示し、高野（全日本）の速攻などで20分6－0とした。

ムネカタにも好機はあったのだが、最後の詰めに甘さがのぞき、出足のよい相手守備陣を崩せなかった。ビクター加藤（全日本）の強引な攻撃が一際光った。（森恭一）

▽熊本

東京重機（東京）8（3－3／5－0）3 大崎電気（埼玉）

得	【重機】		【大崎】	得
0	田中	GK	西村	0
		GK	中島	0
5	古佐原	FP	中村	0
1	市川		席定	1
0	折口		長谷川	1
1	村上		内野	0
0	町田	（審・森 島田）	大場	1
1	横山		深堀	0
0	寺田		杉尾	0
0	山口		永古	0
0	菊地		工藤	0
			古田	0
8	(1)	PT	(0)	3

○……3－0とリードされた大崎が前半15分すぎから鮮やかな速攻で反撃同点に追いつき、試合を盛りあげた。

しかし重機は、後半市川、古佐原（全日本）の巧技で再び3点差、守備陣も立ちなおり、大崎の動きを封じこんだ。6回得たPTのうち成功1回という不調がなければもっと楽に運べた試合である。（板橋安磨）

立石電機山鹿（熊本）17（7－1／10－8）9 ブラザー工業（愛知）

得	【立石】		【ブェ】	得
0	和田	GK	井戸田	0
0	森山	GK	山本	0
3	篠田	FP	原川	1
2	山下		宮崎	3
1	加了崎		橋石	0
4	島田		小森	0
2	蔵田	（審・宍戸 板橋）	藤井	2
3	紀野		宮平	2
0	石井		国府田	1
0	平下		佐々木	0
1	池渕		中川	0
1	山本		山中	0
17	(3)	PT	(2)	9

○……1－1から立石は紀野（全日本）篠田、山下（全日本）とたたみかけ5分4－1と早くも優位。守りにもゆとりができて、ブラザーにそのあと得点を許さなかった。後半も立石のペースで5分10－2と大差がつき、ブラザーはこのあと3点連取したものの、それ以上追いこめず、立石の多彩な動きに押し切られた。（島田秀四）

ブラザー、重機を降す

▽第2日・宇都宮

田村紡 15（8－3／7－4）7 東北ムネカタ

得	【田村】		【ムネ】	得
0	久保	GK	藁谷	0
0	山本	GK	熱海	0
2	三毛	FP	清水	0
2	横山		鈴木	2
1	沖		細谷	1
2	和久井		有賀	3
6	松下	（審・高橋 山下）	遠藤	0
1	鈴木		後藤	1
1	河田		本郷	0
0	金田		近内	0
0	笠 林		郷	0
			佐藤	0
15	(4)	PT	(0)	7

○……前半、田村紡は速いパスでムネカタ守備陣をゆさぶり4点を連取、その後も着実に加点。一方ムネカタは無理なシュートが多くゴールポストに当たって入る幸運な得点を含めて3点だけの劣勢。後半も田村紡のペースで進み、ムネカタは10分すぎ一度3点差まで追いつめたのが精いっぱいだった。（栃木新聞戦評から）

日本ビクター 17（6－2／11－3）5 日立栃木

得	【日ビ】		【日立】	得
0	渡辺	GK	条谷	0
0	鈴木	GK	本城	0
2	蓮見	FP	小根沢	0
2	池田		鈴井	0
2	高野		晴山	2
4	額賀		小山	0
2	加藤	（審・永山 住尾）	鈴木	3
3	穂積		桜庭	0
1	小島		田村	0
1	斉藤		向井	0
0	染谷		山井	0
0	滝本		藤田	0
17	(3)	PT	(1)	5

○……総合力の差がスコアに現れた。スピード、テクニックに優るビクターは、日立ディフェンスを早いパスで十分に引きつけておいてフェイントで切りこみ、この攻撃法がよく決まった。

日立はビクターの堅い守りにあって反撃の糸口をつかめず、後半

は鈴木のシュートで散発的に得点しただけ。（下野新聞戦評から）

▽熊本

ブラザー工業 14（5−6 9−4）10 東京重機

【重機】得 0 5 0 3 0 1 1 0 0 0
中 原川上田口山田口地
田 佐古市村町折横寺山菊
GK FP（審・中津海、大宮）

得【ブエ】0 0 1 5 1 2 0 0 0 5 0
田本川崎木川田森石中平井
井戸山原宮佐々中国府小楠山宮藤
GK FP

14（5）PT（0）10

○……重機は菊地（全日本）、GK三紙と攻守の柱をヒザの負傷で欠いているのがなんとも痛い。

前半はブラザーのシュート失敗につけこんでどうにか先行したが後半になると、しだいに押しこまれ11分8−8からブラザー・宮崎の好シュートに主導権を奪われた。

ブラザーが豪快な持ち味を発揮した一戦。（竹野奉昭）

立石電機 山鹿 13（7−3 6−4）7 大崎電気

【大崎】得 0 0 3 1 0 1 2 0 0 0 0
島村堀場野川定村尾吉藤田
中西深大内長谷席中杉永工吉
GK FP（審・板橋、宍戸）

得【立石】0 0 4 1 0 2 0 3 0 0 3 0
田山田田下野崎田井下渕本
和森蔵島山紀加子篠石平池山
GK

13（5）PT（0）7

○……点差は開いたが立石の内容はそれほどでもなかった。

立ちあがりからピリッとしたところがなく、前半は19分蔵田（全日本）—篠田のパスプレーが光っただけ。後半もミスが目立った。

大崎も、後半9分6−8まで粘ったもののパスミスやシュートミスが多く、わずかに深堀の攻撃力が注目されただけだった。（熊本日日新聞戦評から）

日立栃木、思わぬ3連敗

▽第3日・熊本

ブラザー工業 8（1−2 7−3）5 大崎電気

【大崎】得 0 0 2 0 0 2 1 0 0 0 0 0
村島定川野場堀吉藤村田尾
西中席長谷内大深永工中吉杉
GK FP

得【ブエ】0 0 2 0 2 1 1 1 0 0 0 1
田本崎川田川森木石井中平
井戸山宮原国府中小佐々楠藤山宮
GK FP

8（1）PT（1）5

○……前半はスローテンポの攻撃展開で両チームとも精彩がなかったが、後半になるとようやく動きが滑らかとなり一進一退、17分5−5とせりあった。

このあとブラザーが佐々木、中川、宮崎らで好機を活かしたのに対し、大崎は焦りも手伝って攻撃が雑となり、点差を詰めることができなかった。（森 豊夫）

立石電機 山鹿 17（9−5 8−5）10 東京重機

○……立石は好調な出足で8分3−0、そのあと重機・古佐原（全日本）に2点を返されたが、すぐ

【重機】得 0 2 3 3 1 0 1 0 0 0
中 口原川上田山田口地
田 折古佐市村町横寺山菊
GK FP（審・森、島田）

得【立石】0 0 3 2 3 1 6 1 1 0 0 0
田山下田田崎田野渕本井下
和森山島篠加子蔵紀池山石平
GK

17（3）PT（1）10

島田（全日本）、加子崎、紀野が攻めこんで13分7−2。

重機は後半1分1点を返し6−8として反撃に期待をもたせたが立石は9分までに一気に4点を積みあげ大勢を決めた。重機は2敗連覇が難しくなった。（大宮 泉）

▽宇都宮

東北ムネカタ 9（4−3 5−1）4 日立栃木

【日立】得 0 0 1 2 0 0 0 0 0 0 0 0
谷城山寺井山岩庭村沢井田
粂本晴鈴木鈴小大桜田小根山藤
GK FP（審・斉藤、山内）

得【ムネ】0 0 2 2 0 1 4 0 0 0
谷海藤藤賀谷木水郷内藤
粟熱後遠有細鈴清本近佐郷
GK

9（2）PT（1）4

○……1点を先行された日立はPTと鈴木の連続得点で逆にリードしたが、前半終了間ぎわ、守りが崩れ4分間に3点を奪われた。

波にのったムネカタは後半、有賀（全日本）の好リードで鈴木、清水が切れのよいシュートを決め18分までに5点をあげ9−3。

日立は、攻撃に思い切りがなく手痛い3連敗をきっした。（山下）

田村紡 8（4−2 4−3）5 日本ビクター

【日ビ】得 0 0 1 1 0 3 0 0 0 0 0 0
辺木見野賀藤積藤谷田本島
渡鈴蓮高額加穂斉染池滝小
GK FP（審・山下、高橋）

得【田村】0 0 3 4 1 0 0 0 0 0 0
保本井下毛木沖田田林笠田
久山和久松三鈴金河若
GK

8（2）PT（0）5

○……優勝争いに響く一戦、力がこもった。前半劣勢のビクターは加藤の活躍で盛り返し後半10分5−5。しかし、ここまでで息切れしてしまい、追加点をあげることができなかった。

一方、田村紡は13分PTで6−5として落ちつき、14分松下（全日本）、21分三毛がソツなく得点。巧みな試合運びだった。（斉藤和夫）

（個人得点5傑・第1週現在）①古佐原（重機）13 ②蔵田（立石）12 ③松下（田村）11 ④和久井（田村）、宮崎（ブラザー）各10

立石、ビクターをかわす

第2週

5月31、6月1日の両日名古屋の愛知県体育館で4試合が行われた。

▽第1日

ブラザー工業 15（5−3 10−1）4 東北ムネカタ

○……両チームともよく走りながら、肝心のシュートにミスが多く

【ムネ】得 0 0 0 0 2 1 0 0 1 0 0
谷海藤藤賀谷木藤水郷内
粟熱後遠有細鈴佐清本近郷
GK FP（審・小林、朱宮）

得【ブエ】0 0 0 5 0 1 2 1 2 4 0 0
田本川崎森井平田木川石中
井戸山原宮小藤宮国府佐々中楠山
GK

15（2）PT（0）4

前半は内容に乏しかった。

後半になるとブラザーが宮崎のロングシュートと中川のシャープな動きで着々とポイントを積み重ね10分10−3と放した。

ムネカタもシュート数では相手に劣らなかったが力強さに欠け後半は有賀の1点だけ。

立石電機 山鹿 6（1−3 5−1）4 日本ビクター

【日ビ】得 0 0 0 0 3 0 0 1 0 0 0 0
辺木見野賀積藤田島藤谷本
渡鈴蓮高額穂加池小斉染滝
GK FP（審・朱宮、小林）

得【立石】0 0 1 1 1 2 0 0 0 0
田山田下野田崎渕井木下
和森篠山紀島蔵加子池石山平
GK

6（1）PT（0）4

○……一歩もひけぬビクターは気力のある攻守でシュート不調の立石を押しこんだ。

ところが後半5分をすぎるあたりから、寄り返され10分3−3。

こうなると立石が逆に強味を示し、13分蔵田で逆転、山下、紀野が追い討ちをかけた。ビクターは額賀（全日本）、池田がマークされ後半はよいところがなかった。

▽第2日

立石電機山鹿 19（12−2、7−2）4 東北ムネカタ

【ムネ】

	選手	得
GK	藁谷	0
GK	熱海	0
FP	清水	0
FP	鈴木	1
FP	細谷	2
FP	有賀	1
FP	遠藤	0
FP	後藤	0
FP	本郷	0
FP	近内	0
FP	佐藤	0
FP	郷	0

【立石】

	選手	得
GK	和田	0
GK	丸山	0
FP	島田	4
FP	蔵田	1
FP	篠田	3
FP	紀野	3
FP	山下	2
FP	池渕	3
FP	加子崎	0
FP	山本	1
FP	石井	2
FP	平下	0

（審・小林・朱宮）

19（2）PT（0）4

○……立石の圧勝だった。ムネカタ・ディフェンスはコンビネーションが悪く、立石の早い動きにまどわされて15分までに8点を奪われてしまった。

ムネカタは攻撃に廻っても、立石守備陣の出足にあってつけこむスキがなく、細谷、鈴木のポストプレーでなんとかゴールをあげたにとどまった。（鈴木淳蔵）

日本ビクター 9（6−3、3−3）6 プラザー工業

【日ビ】

	選手	得
GK	渡辺	0
GK	鈴木	0
FP	加藤	2
FP	穂積	1
FP	蓮見	1
FP	額賀	1
FP	高野	2
FP	斉藤	0
FP	池田	2
FP	小島	0
FP	滝本	0
FP	染谷	0

【プ工】

	選手	得
GK	井戸田	0
GK	山本	0
FP	佐々木	0
FP	国府田	0
FP	原川	0
FP	小森	1
FP	藤井	0
FP	宮崎	2
FP	中川	3
FP	山中	0
FP	楠石	0
FP	宮平	0

（審・部梅・西川）

6（0）PT（2）9

○……互いに積極的な攻撃でスタートからとばしたが、ビクターは10分額賀のシュートで3−2と先行してから一気に波にのり高野、加藤らが着々と加点した。

プラザーもけして悪いできではなかったが、宮崎のロングがビクターGK陣に読まれていたこともあり点差が縮らず、後半は要所でPTをとられて傷口を拡げ敗れた。

（個人得点5傑・第2週現在）①宮崎（プラザー）18 ②蔵田（立石）15 ③古佐原（重機）、篠田（立石）各13 ⑤島田（立石）12

第3週

田村紡、手固い連勝

6月7、8日の両日、東京都下調布市の東京重機工業体育館で4試合が行われた。

▽第1日

大崎電気 6（3−3、3−1）4 日立栃木

【日立】

	選手	得
GK	粂谷	0
GK	本城	0
FP	鈴井	0
FP	小山	0
FP	大岩	3
FP	桜庭	1
FP	田村	0
FP	鈴木	0
FP	向井	0
FP	山井	0
FP	藤田	0

【大崎】

	選手	得
GK	西村	0
GK	中島	0
FP	中村	1
FP	席定	1
FP	長谷川	2
FP	内野	0
FP	大場	1
FP	深堀	1
FP	杉尾	0
FP	永吉	0
FP	工藤	0
FP	吉田	0

6（1）PT（3）4

○……攻撃チャンスをしばしばつかみながら決め手のない両チームは、主導権を奪えぬままに時間を経過させた。

後半5分4−4のあと大崎は長谷川、大場（全日本）の連続得点で初めて2点をリード。残り時間から日立にも反撃の余裕は充分にあったのだが拙攻でつぶし、このままのスコアで試合終了。（勝繁夫）

田村紡 18（10−3、8−8）11 東京重機

【重機】

	選手	得
GK	田中	0
FP	町田	0
FP	折口	1
FP	市川	1
FP	横山	1
FP	村上	1
FP	古佐原	7
FP	寺田	0
FP	山口	0

【田村】

	選手	得
GK	久保	0
FP	沖	0
FP	松下	6
FP	横山	0
FP	和久井	4
FP	三毛	3
FP	鈴木	2
FP	河田	3
FP	林	0
FP	宮	0
FP	金田	0

（審・勝・岡村）

18（3）PT（2）11

○……両チームともきびきびした動きで見応えのあるゲームだった。

田村紡は今季絶好調を裏づけるように強いディフェンスから、一気に反撃機をつかみ、三毛の絶妙なパスとリードで着々と加点。

重機は主力の故障がやはり響き後半、いちどは9−12まで追いあげたものの、前半の大差を詰めることはできなかった。（青木敬子）

▽第2日

田村紡 19（12−5、7−4）9 大崎電気

【大崎】

	選手	得
GK	西村	0
GK	中島	0
FP	深堀	2
FP	大場	0
FP	内野	1
FP	長谷川	1
FP	席定	3
FP	中村	2
FP	杉尾	0
FP	永吉	0
FP	工藤	0
FP	吉田	0

【田村】

	選手	得
GK	久保	0
GK	山本	0
FP	松下	8
FP	和久井	7
FP	鈴木	1
FP	三毛	1
FP	沖	1
FP	河田	1
FP	林	0
FP	笠	0
FP	金田	0
FP	平田	0

19（1）PT（0）9

○……大崎の一線防禦に田村紡のポストプレーが通ぜず、前半はせりあいとなった。

しかし20分をすぎるあたりから大崎は攻防両面で粘りがなくなり田村はすかさず和久井の巧みな切りこみと、松下のロングなどでポイント、後半4分には10−4と差をつけた。リードされた大崎は反撃もみせずに終った。（安藤純光）

東京重機 17（11−9、6−5）14 日立栃木

【日立】

	選手	得
GK	粂谷	0
GK	高橋	0
FP	小山	0
FP	晴山	4
FP	鈴井	0
FP	鈴木	2
FP	大岩	4
FP	桜庭	3
FP	田村	0
FP	向井	0
FP	山井	0
FP	蔵田	1

【重機】

	選手	得
GK	田中	0
FP	村上	3
FP	古佐原	3
FP	折口	5
FP	市川	0
FP	町田	2
FP	山口	1
FP	横山	3
FP	寺田	0
FP	菊地	0

17（1）PT（2）14

○……重機が後半7分9−6とした時は、そのままペースをつかむかに見えたが、日立は晴山の強肩を活かして追撃、13分10−9と逆転に成功した。しかし、重機はすぐに折口、横山らが4点を奪う気力を示し、古佐原が徹底的にマークされたマイナスを埋めた。日立も最後まで粘ったが惜しくも及ばなかった。（竹野）

（個人得点5傑・第3週現在）①松下（田村紡）25 ②古佐原（重機）23 ③和久井（田村紡）21 ④宮崎（プラザー）18 ⑤蔵田（立石）15

第4週

大崎、必死の反撃及ばず

6月14、15日の両日、岐阜県民体育館、京都府立体育館、四日市市緑地公園体育館、名古屋市体育館であわせて8試合を行い、全日程を終了した。

▽第1日・岐阜

東京重機 14（9−4、5−3）7 東北ムネカタ

【東北】

	選手	得
GK	藁谷	0
GK	熱海	0
FP	有賀	3
FP	遠藤	0
FP	細谷	0
FP	後藤	0
FP	鈴木郁	1
FP	本郷	0
FP	佐藤	2
FP	清水	1
FP	近内	0
FP	鈴木栄	0

【重機】

	選手	得
GK	三紙	0
GK	田中	0
FP	古佐原	6
FP	市川	0
FP	折口	3
FP	横山	1
FP	町田	2
FP	村上	2
FP	寺田	0
FP	山口	0
FP	菊地	0

14（3）PT（3）7

○……GK三紙が戦列に戻った重機は、安定した試合ぶりをみせたが、ムネカタも前半は有賀、鈴木郁、清水らが積極的に射ってでる健闘だった。

しかし、重機は古佐原、折口の定評あるコンビ攻撃が冴えて、特に後半はスピード豊かな攻撃でムネカタ守備陣を突き破り、順当勝ちした。

日本ビクター 7（2−5、5−1）6 大崎電気

【大崎】

	選手	得
GK	中島	0
GK	西村	0
FP	大場	1
FP	席定	3
FP	長谷川	0
FP	深堀	2
FP	内野	0
FP	杉尾	0
FP	中村	0
FP	工藤	0
FP	永吉	0
FP	吉田	0

【日ビ】

	選手	得
GK	渡辺	0
GK	鈴木	0
FP	池田	0
FP	蓮見	0
FP	加藤	0
FP	額賀	0
FP	高野	0
FP	穂積	0
FP	小島	0
FP	斉藤	0
FP	染谷	0
FP	滝本	0

7（1）PT（2）6

○……ビクターは前半、スムースなパスワークで大崎をゆさぶって着々とポイントをあげ、楽勝する

かにみえた。
　ところが、後半になると動きが止まってしまい、逆に大崎の攻撃が滑らかとなり、もつれた。
　しかし、ビクターは前半の点差で余裕があり、GK渡辺の堅守もあって、逃げこんだ。

▽京都

田村紡 16（9－2 7－2）2 ブラザー工業

	得	【ブ工】	【田村】	得
GK	0	井戸田	久保	0
GK	0	山本	山本	0
FP	0	原川	和久井	2
FP	0	中川	松下	6
FP	0	佐々木	三毛	2
FP	1	宮崎	鈴木	3
FP	2	小森	沖	0
FP	0	国府田	金田	0
FP	0	山中	河田	2
FP	0	楠石	林	0
FP	1	藤井	笠	0
FP	0	宮平	横山	1

（審・岡本・山本）

16（3）PT（0）4

○…一ケ月前の東海実業団決勝では第2延長までもつれあった両者だが、この日は優勝を狙う田村紡の気力が数段上まわり、15分早くも6－2。
　ブラザーは、田村紡の出足のよいディフェンスに、攻撃の芽を完全につぶされ、つけこむスキがまったくなかった。このもろさ、ブラザーのいぜん課題である。

立石電機山鹿 17（8－2 9－2）4 日立栃木

	得	【日立】	【立石】	得
GK	0	粂谷	和田	0
GK	0	本城	丸山	0
FP	0	鈴井	島田	3
FP	2	小根沢	蔵田	1
FP	0	小山	篠田	0
FP	1	晴山	山下	4
FP	0	鈴木	紀野	3
FP	0	桜庭	加子崎	1
FP	0	大岩	池渕	5
FP	0	山井	石井	0
FP	0	田村	林	0
FP	1	藤田	山本	0

（審・福井・吉田）

17（0）PT（0）4

○…優勝最短距離の立石と黒星つづきの日立。その好不調がはっきり表れたばかりか、立石は、目前でライバル・田村紡の快勝（ブラザー戦）を見せつけられているだけに気負い立ち、一方的に攻めまくり、前半10分すぎ、大器・池渕の3連続ゴールなどを織りこんで快勝した。日立は攻防両面でフットワークに難がある。

▽第2日・名古屋

日本ビクター 13（7－3 6－10）13 東京重機
引き分け

○…前半の劣勢にめげず重機は後半10分から反撃に転じ13分10－

~表彰選手~

・最優秀新人
池渕　澄江（立　石）

・ベストセブン
GK　久保　穂子（田村紡）
FP　松下　仁美（田村紡）
和久井照美（田村紡）
三毛　直子（田村紡）
蔵田　照美（立　石）
山下恵美子（立　石）
古佐原ひろ子（重機）

~得点10傑~
（本誌調べ）

①松下　仁美（田村）37
②古佐原ひろ子（重機）33
③和久井照美（田村）26
④宮崎　桂子（ブ工）19
⑤島田　夏枝（立石）18
⑥蔵田　照美（立石）18
⑦紀野奈々美（立石）15
⑧額賀美恵子（日ビ）15
⑨折口　律子（重機）15
⑩席定　洋子（大崎）15

	得	【重機】	【日ビ】	得
GK	0	田中	鈴木	0
GK	0	三紙	渡辺	0
FP	1	市川	池田	2
FP	3	町田	額賀	1
FP	2	村上	加藤	0
FP	3	折口	高野	2
FP	0	横山	穂積	3
FP	4	古佐原	小島	4
FP	0	寺田	斉藤	0
FP	0	山口	蓮見	1
FP	0	菊地	滝本	0
FP			染谷	0

（審・奥村・岩永）

13（0）PT（0）13

10に追いつき16分村上で逆転、22分同点（11－11）とされたものの23分古佐原、24分町田で13－11とした時は勝利を握ったかにみえた。
　しかしビクターもこのあと1分間で驚異的な粘りをみせ、浮足立った相手のパスミスから穂積（全日本）が2点を決め引き分けた。

ブラザー工業 10（3－4 7－0）4 日立栃木

	得	【日立】	【ブ工】	得
GK	0	粂谷	井戸田	0
GK	0	高橋	山本	0
FP	0	鈴井	宮崎	0
FP	0	小山	佐々木	2
FP	0	鈴木	原川	0
FP	0	桜庭	中川	2
FP	2	晴山	小森	3
FP	0	大岩	国府田	2
FP	1	山井	楠石	0
FP	0	小根沢	山中	0
FP	0	藤田	藤井	1
FP	1	田村	宮平	0

（審・稲石・川島）

10（1）PT（0）4

○…前半終了間ぎわ先行を許したブラザーは、後半4～6分の2分間に小森、国府田の巧技で3点をあげて逆にリード、終盤得点をつみ重ねて、最終戦を飾った。
　日立は、前半1－3から晴山の連続得点と小根沢で逆転、好ムードとなったが後半は拙攻つづきで追加点がなくついに7連敗。（鈴木）

▽四日市

大崎電気 7（3－2 4－4）6 東北ムネカタ

	得	【ムネ】	【大崎】	得
GK	0	藁谷	西村	0
GK	0	熱海	深堀	0
FP	0	後藤	大場	3
FP	1	有賀	長谷川	0
FP	1	遠藤	内野	0
FP	1	細谷	席定	3
FP	2	鈴木郁	杉尾	0
FP	0	本郷	中村	1
FP	0	近内	水吉	0
FP	0	清水	吉田	0
FP	0	佐藤	工藤	0
FP	0	鈴木栄		

（審・金沢・都梅）

7（0）PT（0）6

○…ともに1勝5敗と不振だが勝てば6位とあって、白熱した。
　後半直後、逆転を許した大崎は10分すぎ席定、中村、大場の連続3ゴールで再び先行、ムネカタもよく追いかけ23分有賀で6－6。この直後、大崎は席定がシュートを決め、これが決勝点となった両チームの今後に期待がかけられる内容の試合といえた。（鈴木）

立石の反撃及ばず

田村紡 10（6－3 4－5）8 立石電機山鹿

	得	【立石】	【田村】	得
GK	0	和田	久保	0
GK	0	丸山	山本	0
FP	3	島田	三毛	0
FP	0	山下	松下	6
FP	2	蔵田	和久井	3
FP	0	篠田	鈴木	1
FP	2	紀野	沖	0
FP	1	加子崎	横山	0
FP	0	石井	河田	0
FP	0	平下	林	0
FP	0	池渕	笠	0
FP	0	山本	金田	0

10（0）PT（0）8

○…6勝同士。今秋の三重国体でも成年女子決勝は、おそらく両者の顔合せ、という前宣伝がきいて館内は二千の観衆でたいへんな熱気。
　立ちあがりはまったく互角で17分まで3－3。
　先手を打っていた田村紡がこのあと18分松下、20分和久井、20分30秒松下と中央、サイドから攻めたててあげた3点が、戦局を大きく左右した。
○…追う立石は後半2分紀野で4－6としたが、勢いにのる田村紡は松下の大活躍とGK久保の巧技で主導権をキープ、5分18－10と放した。
　立石も20分のPT（蔵田）を口火に22分紀野、24分57秒島田と必死に詰め寄ったが及ばず、田村紡は9年ぶりの勝利を、ホームコートに飾った。

「日本リーグ」移行へ
全日本実連が内定

　全日本実連は6月22日大阪市大正区の市立千島体育館で理事会を開き、「日本実業団リーグ」を男女とも来年度から「日本リーグ」と改称、8チームの春秋総当り2回戦制で実施することを内定、7月中旬の日本協会月例常務理事会へ届出る。
　「日本リーグ」について日本協会は、欧州でみられる国内トップエイトの〝選手権リーグ〟を理想としており、全日本実連の申し合わせをどう受けとめるか注目される。

九州産大が4年連続
～西部日本学生選手権～

中四国、九州両学連による第25回西部日本学生選手権は6月14、15日の両日、広島県立体育館と広島修道大に男子13（中四国7、九州6）、女子3（中四国2、九州1）が参加して開かれた。

男子は、中四国春季1位の山口大が1回戦で熊本商大に完敗する波乱があり、ベストフォアは両学連各2校が分け、そのうち九州産大、熊本商大の九州勢が決勝へ進んだ。

このところ西部で抜群の力を示す九州産大は、エース中馬を韓国遠征（全日本学生）で欠きながら鮮やかな攻防展開で、熊本商大を寄せつけず快勝、4年連続優勝を飾った。

女子は3校のリーグ戦で行われ福岡教育大が中国勢をおさえた。

▽男子1回戦

愛媛大（中四国） 17―16 福岡大（九州）
松山商大（中四国） 18―15 広島大（中四国）
岡山大（中四国） 21―10 熊本工大（九州）
熊本商大（九州） 25―15 山口大（中四国）
西南学院（九州） 18―12 広島工大（中四国）

▽同準々決勝

九州産大（九州） 27―10 愛媛大
岡山大 12―9 松山商大
熊本商大 13―11 福岡教大（九州）
広島修道（中四国） 17―16 西南学院

▽同準決勝

九州産大 27―3 岡山大
熊本商大 17―10 広島修道

▽同3位決定戦

広島修道 21―8 岡山大

▽同決勝

九州産大 26―12 熊本商大

▽女子（リーグ戦）

福岡教大（九州） 10―7 山口大（中四国）
福岡薬大 20―7 岡山県立短大（中四国）
山口大 13―9 岡山県立短大

【順位】①福岡教大②山口大③岡山県立短大

各地学生春季リーグ戦（続報）

東北学院、抜群の攻守示す

東北（5月3～5日 参加9校・仙台大）

4県9校が参加、まず3校づつ3組の予選リーグが行われ、各組同位者によって決勝及び順位決定リーグが争われた。

決勝リーグには東北学院、仙台大、東北大の3校が勝ち進み、東北学院が抜群の実力を示して2勝、優勝を飾った。

4位以下では、仙台大と引き分けた福島大、東北大に食い下った東北工大らの試合ぶりが目についた。

▽予選リーグ・A組

岩手大 18―5 山形大
東北学院 35―5 山形大
東北学院 20―2 岩手大

【順位】①東北学院②岩手大③山形大

▽同B組

福島大 10―9 宮城教大
仙台大 19―12 宮城教大
仙台大 11（分）11 福島大

【順位】①仙台大（得失点差7）②福島大（1）③宮城教大

▽同C組

東北工大 18―5 東北学院工学部
東北大 20―5 東北学院工学部
東北大 19―18 東北工大

▽7～9位決定リーグ

宮城教大 18―14 山形大
宮城教大 19―10 東北学院工学部
山形大 14―12 東北学院工学部

【順位】⑦宮城教大⑧山形大⑨東北学院工学部

▽4～6位決定リーグ

福島大 22（13―3、9―4）7 東北工大
岩手大 13（5―4、8―2）6 福島大
岩手大 14（7―5、7―7）12 東北工大

【順位】④岩手大⑤福島大⑥東北工大

▽決勝リーグ

仙台大 19（12―6、7―9）15 東北大
東北学院 21（12―6、9―3）9 仙台大
東北学院 22（11―5、11―5）10 東北大

【順位】①東北学院②東北大③仙台大

地区割で16校出場
今夏の高専選手権

日本協会は、今夏8月29、30の両日愛知県豊田市・豊田高専体育館で開く第2回全国高専選手権の出場校を16校とすることに決め、地区割を次のように発表した。

北海道1、東北1、関東甲信越3、東海北陸A地区2、同B地区1、近畿2、中国2、四国1、九州2、開催地1

申しこみ先は愛知県豊田市栄生町2の1・豊田高専内、大会事務局。電05653-2-3463

山口大、広大福山らおさえる

中四国
（5月24，25日・山口大　参加1部5，2部6校）

第1日2勝をマークした昨秋の優勝校・広島修道が第2日になって調子をくずし、首位争いは混とんとした。

残り2試合時点で広島大福山が2勝1分、山口大が2勝1敗となり、最終戦の両校の試合に優勝がかけられた。

その結果、攻守にバランスがとれた山口大が前半の劣勢をはね返し、後半、広島大福山を押しこんで快勝、3シーズンぶり6度目の優勝を飾った。

初優勝を狙った広島大福山は、得失点差で愛媛大にも抜かれ3位。

2部は久々に松山商大が元気をとりもどし、予選ラウンド、決勝とも順調に勝ち1位となった。2部での優勝は42年秋についで2度目。

女子は山口大×岡山県立短大戦が行われ、山口大が大勝した。

▽男子1部

広島修道 10（6−3, 4−5）8 山口大

山口大 14（7−7, 7−6）13 愛媛大

広島修道 19（7−8, 12−8）16 岡山大

広島大福山 16（10−6, 6−8）14 岡山大

得	【山口】		【愛媛】	得
0	広瀬	GK	山崎	0
0	飛良	GK	鈴川	0
6	浜田	FP	武智	3
1	藤嶋	FP	池田	1
5	宮崎	FP	井上	0
1	新見	FP	中村	2
0	安部	FP	古田	1
0	長田	FP	曽根	0
1	森宗	FP	坂田	0
0	二本松	FP	林	4
0	松浦	FP	金子	2
0	古賀	FP	秦	0
14（2）		PT		（2）13

（審・福光、高橋）

愛媛大 16（8−5, 8−11）16 広島大福山　引き分け

愛媛大 21（11−6, 10−7）13 広島修道

山口大 21（10−7, 11−5）12 岡山大

広島大福山 18（8−9, 10−6）15 広島修道

愛媛大 18（11−4, 7−3）7 岡山大

山口大 18（11−1, 7−8）9 広島大福山

【順位】①山口大3勝1敗②愛媛大2勝1分1敗（得失点差18）③広島大福山2勝1分1敗（マイナス4）④広島修道2勝2敗⑤岡山大4敗

▽2部・予選リーグA組

松山商大 31−9 広島工大

香川大 17−12 広島工大

松山商大 19−13 香川大

【順位】①松山商大②香川大③広島工大

▽同B組

広島大 17−7 山口大工学部

広島大 34−6 近畿大呉

山口大工学部 15−14 近畿大呉

【順位】①広島大②山口大工学部③近畿大呉

▽同5・6位決定戦

近畿大呉 14−13 広島工大

▽同3・4位決定戦

山口大工学部 17−9 香川大

▽同首位決定戦

松山商大 16（7−9, 9−4）13 広島大

▽女子

山口大 20（9−6, 11−2）8 岡山県立短大

九州産大、福岡教大制し連勝

九州
（5月31〜6月1日　参加16校・熊本工大）

第13回全九州学生選手権。

予想どおり福岡勢が強味をみせ、ベスト4のうち3校が進出。

九州産大×福岡教大の決勝は、福岡教大が前半波にのった攻撃で4点のリードを奪い、九州産大の連勝にストップをかけるかとみえたが、地力に優る九州産大は後半にはいるや、持ち前の攻撃力で一気に逆転して快勝、3年連続3度目のタイトルを獲得した。

▽1回戦

九州産大（福岡）19（10−4, 9−7）11 九州大（福岡）

大分大 24（15−5, 9−8）13 福岡工大

鹿児島大 21（7−4, 14−7）11 長崎大

福岡大 19（10−9, 9−4）13 九州工大（福岡）

福岡教大 25（14−10, 11−3）13 熊本大

長崎造船 20（10−6, 10−7）13 九州東海（熊本）

西南学院（福岡）24（16−5, 8−4）9 熊本工大

熊本商大 22（13−4, 9−4）8 宮崎大

▽準々決勝

九州産大 31（15−6, 16−5）11 大分大

福岡大 25（14−6, 11−9）15 鹿児島大

熊本商大 16（1−2, 3−1 : 9−8, 3−4）15 西南学院

福岡教大 31（14−1, 17−9）10 長崎造船

▽準決勝

九州産大 27（13−4, 14−7）11 福岡大

福岡教大 25（11−8, 14−4）12 熊本商大

▽3位決定戦

熊本商大 33（13−10, 20−8）18 福岡大

▽決勝

九州産大 23（17−8, 6−10）18 福岡教大

大学定期戦

▼第15回早慶明（6月7日・早大記念会堂）

早稲田 25（15−9, 10−7）16 明治

慶応 20（12−5, 8−6）11 明治

慶応 19（7−9, 12−10）19 早稲田　引き分け

【順位】①早稲田・慶応③明治＝早稲田は6年連続12度目、慶応は10年ぶり3度目の優勝。

▼第25回同志社×立教（5月31日 京都岩倉）

同志社 24（13−4, 11−4）8 立教

同志社は6連勝。通算成績は同志社の14勝11敗、

▼岡山大×山口大（5月23日、山口大）

山口大 11（8−6, 3−5）11 岡山大　引き分け

（お詫び）本誌前号18〜25頁「各地学生春季リーグ戦」記事のうち、各地順位の5位（⑤）が、すべて⑥と誤植されていました。お詫びして訂正します。各地5位は次の各校です。

▽北海道　北見工大▽東海男子、静岡大▽関東5部A　和光、同B　独協▽東北　福島大▽関西1部　大阪大

また関東学生3部順位4位以下を次のように訂正します。

④東京工大4勝3敗⑤成蹊・東大2勝1分4敗⑦武蔵工大⑧横浜商科大

男女とも大阪体大勝つ

関西

（4月20日～5月18日 西京極球技場ほか）

予想どおり大阪体大が勝ち進んだのに対し対抗と目された京都産大は第7日、大阪経大の巧みな試合運びに誘いこまれて手痛い1敗をきっした。

優勝は、最終戦の両校の対戦にかけられたが、精神的にも優位に立つ大阪体大が、危気ない試合ぶりで京都産大をつきはなし全勝、7シーズン連続優勝を遂げた。

3位同志社、4位大阪経大と上位4校の順位はこれで3シーズン変わらず。

Bクラスでは大阪大が負けこしたものの上位校と互角にわたりあった健斗が目立つ。

女子は、前シーズン優勝の甲子園女短大と大阪薬大が不参加、4校による争いだったが、大阪体大が安定した攻守で、優勝をかけた武庫川女との一戦も、相手の追いこみをかわして制勝、7シーズンぶり4度目の栄冠を飾った（注・昭43秋の結成準備大会の優勝を含む）

＝男子2部以下の記録は次号

▽1部

近大 16（8-3 8-5）8 大阪経大

大阪体大 24（15-0 9-2）2 近大

京都産大 11（6-4 5-6）10 阪大

同志社 22（12-4 10-3）7 甲南

大阪体大 31-2 甲南

京都産大 12-7 近大

同志社 11-11 阪大

引き分け

同志社 18（6-5 12-3）8 近大

大阪体大 21（12-2 9-6）8 阪大

京都産大 11（7-4 4-4）8 甲南

大阪経大 10（7-1 3-7）8 阪大

大阪体大 15-10 大阪経大

京都産大 9-7 同志社

大阪経大 9（6-3 3-4）8 京都産大

阪大 24（13-6 11-3）9 甲南

大阪体大 10（6-4 4-5）9 同志社

近大 27-10 甲南

同志社 11（9-1 2-2）3 大阪経大

阪大 14（6-7 8-4）11 近大

大阪経大 19（5-5 14-3）8 甲南

大阪体大 13（6-5 7-4）9 京都産大

【順位】①大阪体大6戦全勝②京都産大4勝2敗③同志社3勝1分2敗④大阪経大3勝3敗⑤阪大2勝1分3敗⑥近大2勝4敗⑦甲南7敗

【2部順位】①京大②京都教大③関④大大阪府立大⑤神戸大⑥天理⑦桃山学院

なお、3部は大阪教大、4部は大阪工大、5部は大阪歯科大がそれぞれ1位となった。

武庫川女、追いこめず

▽女子

武庫川女 27（17-0 10-0）0 成蹊女短

大阪体大 13（8-0 5-0）0 大阪教大

大阪体大 24（14-1 10-0）1 成蹊女短

武庫川女 19（9-1 10-0）1 大阪教大

大阪教大 16（10-1 6-1）2 成蹊女短

大阪体大 11（4-2 7-4）6 武庫川女

【順位】①大阪体大3戦全勝②武庫川女2勝1敗③大阪教大1勝2敗④成蹊女短大3敗

各地学連入れ替え戦

▼東海男子1・2部（5月24日、南山大球技場）

岐阜大（2部②）18（10-6 8-5）11 南山（1部⑤）

名古屋工大（2部①）15（8-5 7-8）13 滋賀大（1部⑥）

▼関東3部以下（5月23日、駒沢屋内球技場）＝2部以上は既報

▽3～4部

茨城大（4部②）22-6 武蔵工大（3部⑦）

防衛大（4部①）21-10 横浜商大（3部⑧）

▽4～5部

千葉大（4部⑦）16-11 都留文化大（5部②）

武蔵（5部①）25-10 都立大（4部⑧）

なお、未発表だった関東学生春季4部の得点王は兼田佳博（日本工大）選手と決まった。

各地学連新人戦

▼第13回関東学生新人戦（5月・駒沢第一球技場）

▽男子1回戦勝者 亜細亜、青山学院、日大、慶応、東京教大、東海、駒沢、法政、東京工大

▽同2回戦勝者 中央、青山学院、日大、慶応、早稲田、駒沢、日体、東京工大

▽同準々決勝

中央 22-12 青山学院

日大 18-17 慶応

早稲田 15-11 駒沢

日体 27-9 東京工大

▽同準決勝

中央 21-7 日大

日体 14-13 早稲田

▽同3位決定戦

早稲田 14-9 日大

▽同決勝

中央 25（9-6 16-10）16 日体

中央は3年連続3度目の優勝

▽女子リーグ

日体 14-8 東京教大

東女体大 12-8 日女体大

日女体大 10-6 東京教大

東女体大 16-9 日体

東女体大 10-5 東京教大

日体 15-10 日女体大

【順位】①東女体大＝3年連続優勝②日体③日女体大④東京教大

▼第6回東海学生新人戦（6月、名大）

▽男子1回戦勝者、南山、中京B、名大、岐阜大、名工大B、愛大名古屋

▽同準々決勝

名城 21-4 南山

中京 13-11 愛大名古屋

中京B 13-9 名大

岐阜大 16-7 名工大B

▽同準決勝

名城 27-9 中京B

中京 17-16 岐阜大

▽同3位決定戦

中京B 16-15 岐阜大

▽同決勝

名城 17（11-3 6-4）7 中京

名城は2年連続3度目の優勝

▽女子1回戦（＝準決勝）

中京女 25-1 南山

愛知教大 11（延）10 中京

▽同決勝

中京女 14（6-1 8-1）2 愛知教大

中京女は2年連続4度目の優勝

第26回全日本高校選手権 各県予選記録 (1)

★太字は代表校
★6月12日まで報告分

推せん出場
（前年度優勝校）
男・久留米工（福岡）＝2年連続2度目の代表
女・大谷（大阪）＝4年連続10度目の代表

東北

◇岩手県
▼男子1回戦
盛岡三 19—9 盛岡市立
水沢 19—12 花巻農
盛岡一 16—7 久慈
釜石南 17（分）17 岩手
ペナルティスローコンテストで釜石南の勝ち
一関工 20—13 福岡
花巻北 15—9 盛岡四
▽同準々決勝
盛岡商 9—8 盛岡三
盛岡一 12（延）10 水沢
一関工 20—7 釜石南
花巻北 13—10 生活学園
▽同準決勝
盛岡一 4—3 盛岡商
▽同決勝
花巻北 18—8 一関工
花巻北 7—3 盛岡一
花巻北は2年ぶり2度目の代表
▼女子1回戦（3試合）
岩手女 8—2 釜石商
平舘 4（延）3 大原商
花巻農 7—2 釜石南
▽同準々決勝
花巻南 7—2 岩手女
花巻北 4—1 平舘
黒沢尻南 7—5 水沢
盛岡二 8—5 花巻農
▽同準決勝
花巻南 4—3 花巻北
盛岡二 8—3 黒沢尻南
▽同決勝
盛岡二 4—3 花巻南
盛岡二は2年連続2度目の代表

北信越

◇新潟県
▼男子1回戦（2試合）
巻 14—3 加茂農林
柏崎 9—5 明訓
▽同準決勝
柏崎工 16—7 巻
中越 7—5 柏崎
▽同決勝
柏崎工 9—7 中越
柏崎工は3年連続9度目の代表
▼女子決勝リーグ
巻 4—1 明訓
江南 13—1 明訓
江南 6—1 巻
【順位】①江南②巻③明訓＝江南は初出場

◇石川県
▼男子1回戦（1試合）
北陸大谷 20—14 小松商
▽同2回戦
小松工 25—7 宝達
県工 34—7 松任
金沢商 19（延）18 北陸大谷
星稜 15—14 小松
松陵工 12—11 二水
金沢市工 16—7 津幡
寺井 20—4 錦丘
泉丘 15—6 羽咋
▽同準々決勝
小松工 8—7 県工
星稜 24—13 金沢商
松陵工 19—10 金沢市工
泉丘 13—9 寺井
▽同準決勝
小松工 11—8 星稜
泉丘 13—7 松陵工
▽同決勝
小松工 7—6 泉丘
小松工は2年連続2度目の代表
▼女子1回戦（2試合）
小松商 11—5 星稜
金沢商 15—0 珠洲実
▽同準々決勝
小松市女 35—1 小松商
北陸大谷 23—0 津幡
短大高 7—6 宝達
松任 9—4 金沢商
▽同準決勝
小松市女 23—3 北陸大谷
松任 16—11 短大高
▽同決勝
小松市女 22—2 松任
小松市女は11年連続11度目の代表

◇福井県
▼男子予選リーグA組
若狭 35—0 敦賀工
羽水 25—2 敦賀工
若狭 14—1 羽水
▽同B組
科学技術 11—10 北陸
北陸 13—8 武生商
科学技術 19—8 武生商
▽同C組
高志 14—4 福井商
藤島 18—8 福井商
高志 15—13 福井商
▽同決勝トーナメント1回戦
藤島 12—11 北陸
羽水 16—8 高志
▽同準決勝
若狭 17—9 藤島
羽水 11—5 科学技術
▽同決勝
若狭 22—6 羽水

若狭は5年ぶり3度目の代表

▼女子予選リーグA組

武生商 6―2 仁愛女子
仁愛女子 15―5 福井商
武生商 15―0 福井商

▽同B組

藤島 16―3 羽水
高志 11―5 若狭
高志 6―3 藤島
若狭 18―11 羽水
藤島 19―5 若狭
高志 21―1 羽水

▽同決勝トーナメント1回戦

武生商 13―5 藤島
高志 7―3 仁愛女子

▽同決勝

武生商 15―2 高志

武生商は2年連続3度目の代表

関東

◇山梨県（開催地）

▼男子予選トーナメント1回戦

大月 11―3 園芸
長坂 13―6 農林
機山工 21―7 甲府商
東海 17―7 谷村工
日大明誠 22―1 第一商

▽同2回戦

日川 19―2 大月
甲府工 14―2 韮崎工
甲府一 10―8 機山工
甲府南 8―6 長坂
吉田 8―7 日大明誠
都留 17―5 峡北
塩山商 18―7 東海
韮崎 12―6 甲府二

▽同決勝リーグ進出校決定戦

甲府南 19―17 甲府工
日川 20―6 甲府一
塩山商 23―8 韮崎
吉田 18―11 都留

▽同決勝リーグ

塩山商 27―7 甲府南
日川 16―6 吉田
塩山商 11―6 吉田
日川 21―7 甲府南
甲府南 16―15 吉田
日川 12―9 塩山商

【順位】①日川②塩山商③甲府南④吉田。日川は2年ぶり5度目の代表、塩山商は2年連続16度目代表

▼女子予選トーナメント1回戦

日川 17―2 甲府一
甲府二 11―5 峡北
第一商 12―8 甲府南
吉田商 10―4 長坂

▽同決勝リーグ進出校決定戦

日川 5―4 山梨
塩山商 13―6 吉田
甲府商 15―1 甲府二
吉田商 17―2 第一商

▽同決勝リーグ

甲府商 8―4 吉田商
日川 6―5 塩山商
甲府商 5―3 塩山商
日川 7―1 吉田商
塩山商 10―8 吉田商
甲府商 4―3 日川

【順位】①甲府商②日川③塩山商④吉田商。甲府商は初出場、日川は2年連続5度目の代表。

東海

◇愛知県

▼男子名古屋北支部予選1回戦

旭野 15―11 松蔭
千種 20―6 名古屋学院
明和 18―7 愛知商
中村 17―7 緑ケ丘商
名城大付 12―8 名古屋北

▽同2回戦

旭丘 7―4 旭野
春日井 10―4 千種
東山工 9―7 瀬戸
東海 8―6 明和
中村 11―9 名古屋西
愛知工 11―9 東邦
愛知 24―5 春日井
市工芸 29―7 名城大付

▽同県予選進出校決定戦

春日井 6―5 旭丘
東海 8―6 東山工
中村 7(分)7 愛知工
抽せんで中村の勝ち
市工芸 12―4 愛知

▽同名古屋南支部予選1回戦

星城 7―4 半田
向陽 9―4 富田
熱田 10―3 横須賀
東郷 13―7 明和
惟信 10―9 東浦
半田農 不戦勝 享栄
名商大付 18―9 大府

▽同2回戦

名南工 31―6 星城
瑞陵 11―8 熱田
向陽 16―10 半田工
中京 13―5 東郷
桜台 22―9 惟信
緑 30―4 半田農
南陽 14―10 尾張
名古屋市工 20―12 名商大付

▽同県予選進出校決定戦

名南工 36―5 向陽
瑞陵 15―10 中京
桜台 22―7 緑
名古屋市工 24―11 南陽

▽同西三河支部予選1回戦

安城農 13―11 刈谷
衣台 7―6 豊田工
岡崎工 9(分)9 刈谷北
ペナルティスローコンテストで岡崎工の勝ち
茂丘 不戦勝 トヨタ学園

▽同2回戦

西尾 15―5 安城農
岡崎 8―6 刈谷工
一色 24―6 三好
岡崎商 10―8 衣台
岡崎北 11―4 岡崎工
安城 不戦勝 高浜
知立 13―8 教大付
岡崎城西 17―5 茂丘

▽同3回戦

西尾 13―8 岡崎
一色 20―5 岡崎商
安城 10―8 岡崎北
岡崎城西 17―7 知立

▽同県予選進出校決定戦1次戦

西尾 15―13 一色
岡崎城西 15―6 安城

▽同2次戦

安城 8―5 一色

▽同東三河支部予選1回戦

豊川工 22―4 豊川
蒲郡 13―12 豊南
桜ケ丘 16―13 豊丘
時習館 16―10 国府
豊橋東 12―11 新城東
豊橋商 12―11 新城

▽同2回戦

蒲郡東 22―4 豊橋商
時習館 21―7 豊橋東
桜ケ丘 21―7 蒲郡
豊橋工 14―8 豊川工

▽同県予選進出校決定戦1次戦

桜ケ丘 10―9 豊橋工
蒲郡東 15―12 時習館

▽同2次戦

豊橋工 16―11 時習館

▽同尾張支部予選1回戦

一宮 25―3 津島
蟹江 12―9 五条

▽同2回戦

一宮工 9―3 一宮
一宮西 15―1 犬山
小牧工 16―12 丹羽
尾北 16―6 蟹江

▽同県予選進出校決定戦

一宮西 9―8 一宮工
小牧工 19―13 尾北

▽同県予選1回戦

名南工 15―5 安城
東海 10―9 小牧工
瑞陵 21―14 桜ケ丘

市工芸 17—7 蒲郡東
岡崎城西 13—11 豊橋工
桜台 14—5 中村
一宮西 11—10 春日井
名古屋市工 21—11 西尾
▽同準々決勝
名南工 13—5 東海
市工芸 11—10 瑞陵
桜台 15—10 岡崎城西
名古屋市工 20—3 一宮西
▽同準決勝
名南工 20—9 市工芸
名古屋市工 11—7 桜台
▽同決勝
名古屋市立 10—9 名南工
名古屋市工は初出場
▼女子名古屋北支部予選1回戦
椙山 10—3 春日井商
愛知商 5—4 瀬戸
緑ケ丘商 5—3 西陵商
名古屋商 17—1 春日井
中村 11—4 明和
千種 8—7 名古屋西
▽同2回戦
市邨学園 12—3 椙山
緑ケ丘商 10—5 愛知商
名古屋商 9—4 中村
松蔭 15—4 千種
▽同県予選進出校決定戦1次戦
市邨学園 13—2 緑ケ丘商
名古屋商 7—5 松蔭
▽同2次戦
緑ケ丘商 3—2 松蔭
▽同名古屋南支部予選1回戦
中川商 10—3 熱田
南陽 10—6 東海女
桃陵 13—4 向陽
東郷 9—7 瑞陵
半田 12—4 名短付
▽同2回戦
半田商 21—1 惟信
桜台 9—8 中川商
東海商 10—6 大府
半田農 8—7 南陽
高蔵 14—5 桃陵
東郷 7—6 若宮商
名女大 8—2 横須賀
半田 14—3 内海
▽同県予選進出校決定戦1次戦
半田商 13—4 桜台
東海商 10—6 半田農
高蔵 10—2 東郷
半田 11—5 名女大
▽同2次戦予備試合
桜台 6—5 名女大
半田農 6(分)6 東郷
ペナルティスローコンテストで
半田農の勝ち
▽同2次戦
桜台 13—5 半田農
▽同西三河支部予選1回戦
一色 11—2 高浜
安城 11—3 知立
安城学園 3—2 加茂丘
西尾 13—3 刈谷北
岡崎 5—4 岡崎北
岡崎女 10—5 豊田東
▽同2回戦
岩津 12—1 一色
安城学園 6—5 安城
西尾 9—2 岡崎
岡崎商 10—6 岡崎女
▽同県予選進出校決定戦1次戦
岩津 6—1 安城学園
西尾 5—4 岡崎商
▽同2次戦
安城学園 7—6 岡崎商
▽同東三河支部予選1回戦
宝陵 8—5 時習館
新城東 8—3 豊橋東
豊橋南 10—2 新城
▽同2回戦
蒲郡東 11(延)8 国府
蒲郡 7—4 宝陵
豊橋商 7—0 新城東
豊橋南 7—2 豊丘
▽同県予選進出校決定戦1次戦
蒲郡 7—5 豊橋商
蒲郡東 13(延)7 豊橋南
▽同2次戦
豊橋南 8—5 豊橋
▽同尾張支部予選1回戦
一宮西 9—6 蟹江
尾北 15—7 犬山
古知野 4—2 津島
一宮 8—4 佐屋
▽同県予選進出校決定戦
一宮西 11—7 尾北
一宮 15—0 古知野
▽同県予選1回戦
市邨学園 20—2 桜台
高蔵 6—4 安城学園
一宮 13—8 豊橋商
岩津 15—2 東海商
蒲郡 11—4 緑ケ丘商
半田商 13—2 一宮西
名古屋商 6—4 半田
西尾 8—5 蒲郡東
▽同準々決勝
市邨学園 19—2 高蔵
岩津 13—5 一宮
蒲郡 7—4 半田商
西尾 11—3 名古屋商
▽同準決勝
市邨学園 8—5 岩津
蒲郡 8—5 西尾
▽同決勝
市邨学園 12—5 蒲郡
市邨学園は2年ぶり10度目の代表

◇岐阜県

▼男子予選トーナメント1回戦
岐阜東 10—6 大垣
不破 6—4 加納
益田 8—6 岐阜南
大垣南 14—8 高山工
各務原 18—12 岐阜西工
▽同2回戦
県岐阜商 28—8 岐阜東
岐阜工専 22—8 大垣北
不破 16—2 岐阜工
岐阜北 13—10 益田
市岐阜商 11—8 大垣南
大垣工 12—10 中濃西
岐山 14—7 多治見北
大垣農 24—7 各務原
▽同決勝リーグ進出校決定戦
県岐阜商 21—4 岐阜工専
岐阜北 12—11 不破
市岐阜商 22—5 大垣工
岐山 18—9 大垣農
▽同決勝リーグ
県岐阜商 12—3 岐阜北
岐山 10—7 市岐阜商
県岐阜商 9—7 市岐阜商
岐山 13—8 岐阜北
市岐阜商 15—11 岐阜北
県岐阜商 10—8 岐山
【順位】①県岐阜商②岐山③市岐阜商④岐阜北。県岐阜商は2年ぶり8度目の代表。
▼女子予選トーナメント1回戦
岐阜南 15—0 郡上
大垣 8—6 大垣北
益田 15—3 本巣
養老女 8—0 岐阜北
加納 5—4 第一女
富田女 10—3 大垣農
高山 17—2 不破
県岐阜商 16—2 大垣南
▽同決勝リーグ進出校決定戦
岐阜南 20—4 大垣
養老女 10—3 益田
富田女 11—1 加納
県岐阜商 8—4 高山
▽同決勝リーグ
県岐阜商 10—5 富田女
岐阜南 8—7 養老女
岐阜南 8—3 富田女
県岐阜商 10—7 養老女
富田女 14—12 養老女
岐阜南 8—6 県岐阜商
【順位】①岐阜南②県岐阜商③富田女④養老女。岐阜南は2年連続2度目の代表。

近畿

◇滋賀県（1次予選）
▼男子1回戦（2試合）
彦根工 9—6 長浜商工
高島 19—9 能登川
▽同2次予選進出校決定戦
彦根東 19—7 彦根西
安曇川 14—6 彦根工
米原 16—10 高島
八幡工 21—5 近江
▼女子1回戦（3試合）
安曇川 13—3 大商
高島 11—4 八幡商
彦根東 10—4 彦根南
▽同2次予選進出校決定戦
守山女 21—4 能登川
彦根西 9—3 安曇川
愛知 10—8 高島
米原 9—6 彦根東
（注）2次予選の記録は次号

◇奈良県
▼男子1回戦
郡山 27—2 東大寺
天理 13—5 奈良工
畝傍 11—6 桜井商
添上 29—10 橿原学院
榛原 17—6 生駒
十津川 17—1 正強
▽同準々決勝
奈良 17—4 天理
郡山 15—13 畝傍
添上 34—4 一条
榛原 14—12 十津川
▽同準決勝
奈良 19—12 郡山
添上 27—7 榛原
▽同決勝
添上 16（延）12 奈良
添上は2年連続15度目の代表
▼女子1回戦（1試合）
一条 22—3 帝塚山
▽同準々決勝
短大付 6—5 桜井商
郡山 13—4 十津川
添上 不戦勝 榛原
一条 10（分）10 生駒
抽せんで一条の勝ち
▽同準決勝
添上 15—5 郡山
一条 12—5 短大付
▽同決勝
添上 8—4 一条
添上は4年連続8度目の出場

四国

◇高知県
▼男子予選トーナメント1回戦
追手前 31—2 須崎工
吾北分校 30—6 宿毛工
幡多農 32—4 伊野商
高知西 18—4 中村
中芸 13—8 須崎
▽同決勝リーグ進出校決定戦
追手前 10—7 吾北分校
幡多農 14—7 高知西
土佐 19—4 中芸
▽同決勝リーグ
追手前 11—8 土佐
幡多農 16—11 追手前
土佐 19—9 幡多農
【順位】①土佐（得失点差7）②追手前（マイナス2）③幡多農（マイナス5）。土佐は9年ぶり11度目の代表
▽女子リーグ
城山 7—3 佐川
中芸 10—8 中村
高知西 5—4 佐川
城山 13—3 中芸
高知西 11—10 中村
中芸 7—3 佐川
城山 14—9 中村
高知西 6—4 中芸
中村 6—5 佐川
城山 6（分）6 高知西
【順位】①城山（得失点差19）②高知西（4）③中芸④中村⑤佐川。城山は2年連続3度目の代表。

中国

◇山口県
▼男子1回戦
岩国商 8—7 宇部鴻城
徳山 28—7 坂上
岩国 14—13 徳山工
下関工 9—3 宇部工
▽同2回戦
下関中央工 21—6 岩国商
防府商 25—5 野田学園
高水 18—8 下関西
下松工 18—12 徳山
岩国 11—9 下関一
小野田工 18—11 山口
早鞆 19—8 南陽工
岩国工 20—4 下関工
▽同準々決勝
下関中央工 30—6 防府商
下松工 29—12 高水
岩国 23—7 小野田工
岩国工 22—6 早鞆
▽同準決勝
下関中央工 19—10 下松工
岩国工 14—9 岩国
▽同決勝
岩国工 15—11 下関中央工
岩国工は2年連続7度目の代表
▼女子1回戦（3試合）
徳山商 7（延）6 防府商
山口中央 7—5 下関西
宇部女 14—6 坂上
▽同準々決勝
徳山 20—1 徳山商
岩国商 10—7 山口中央
高水 14—3 田部
岩国 10—4 宇部女
▽同準決勝
徳山 11—5 岩国商
岩国 8—6 高水
▽同決勝
徳山 14—5 岩国
徳山は3年連続18度目の代表

九州

◇福岡県
▼男子1回戦
香椎 18—10 明善
若松 13—9 糸島
福岡 15—6 西田川
小倉西 27—4 宗像
福岡工 21—7 田川工
小倉工 20—6 筑紫中央
三池 15—10 博多工
西南 不戦勝 門司
▽同準々決勝
香椎 7—4 若松
小倉西 23—4 福岡
小倉工 9—6 福岡工
西南 22—4 三池
▽同準決勝
小倉西 21—9 香椎
小倉工 12—7 西南
▽同決勝
小倉西 8—6 小倉工
小倉西は5年連続6度目の代表
▽参考記録
小倉西 20—5 久留米工（推）
▼女子準々決勝（＝1回戦）
筑紫中央 6—4 東海五
古賀 12—5 福岡女
筑紫女 18—4 嘉穂農
明善 11—7 福岡女商
▽同準決勝
古賀 15—3 筑紫中央
筑紫女 9—7 明善
▽同決勝
古賀 11—3 筑紫女
古賀は3年連続4度目の代表

（各地代表校速報）三重県＝男・四日市工、女・暁　宮崎県＝男・都城泉ケ丘、女・小林商　香川県＝男・坂出工、女・高松南、岡山県＝男・津山工、女・金川、大分県＝男女とも大分東、（詳報次号）

関東高校選手権
日体荏原の初優勝なる
女子は昭和学院

第21回関東高校選手権は6月7日から3日間、千葉県佐原高グラウンドに8県の代表、男女各24校が参加して行われた。

男子は新進校の健斗が目立ち、波乱にとんだ展開となったが、決勝は日体荏原(東京)×清水(千葉)の初顔合せとなり、日体が前半なかばから多彩な攻撃力で優位に立ちそのまま主導権を握って制勝、初優勝を遂げた。東京代表の優勝は2年連続15度目。

女子は3連勝を目指す水海道二(茨城)が緒戦で小山城南(栃木)に押し切られて姿を消したが、男子と対照的に伝統校が強味をみせ上位へ進んだ。

決勝は昭和学院（千葉）と麻生（茨城）の対戦で麻生が前半をリードした。

しかし、後半になると昭和がゴール前フリースローを巧みに活かして主導権を奪い、押し切った。

昭和の優勝は6年ぶり2度目、千葉代表の優勝も同じ。

▽男子1回戦

笠間(茨)16—9慶応(神)
馬頭(栃)17—14県立商工(神)
日体荏原(東)20—4茨城(茨)
日川(山)17—7市原(千)
菖蒲(埼)11—9藤岡(群)
小岩(東)12—6前橋商(群)
鳥山(栃)14—6明徳(千)
浦和西(埼)14—7吉田(山)

▽同2回戦

笠間 10—9 拓大一(東)
麻生(茨)20—7馬頭
日体荏原 21—9 塩山商(山)
日川 14—11 富岡(群)
菖蒲 11—10 国学院栃木
清水(千)10—9小岩
川口工(埼)18—8鳥山
関東学院(神)15—9浦和西

▽同準々決勝

笠間 9（5—2，4—2）4 麻生
日体荏原 17（12—3，5—2）5 日川
清水 17（12—4，5—8）12 菖蒲
関東学院 12（9—4，3—7）11 川口工

▽同準決勝

日体荏原 9（6—3，3—3）6 笠間
清水 18（11—5，7—3）8 関東学院

▽同決勝

日体荏原 15（7—5，8—4）9 清水

▽女子1回戦

群馬女短大付 8—5 笠間(茨)
昭和学院(千)8—3京浜女大付横浜(神)
小山城南(栃)5—1水海道二(茨)
国学院栃木 20—6 前橋市女(群)
桐朋女(東)10—7高津(神)
日川(山)15—9東邦大付(千)
小平(東)13—10浦和(埼)
塩山商(山)7—6川口北(埼)

▽同2回戦

甲府市商(山)10—3群馬女短大付
昭和学院 11—2 三宅(東)
明倫(神)7—5小山城南
国学院栃木 6—4 佐原女(千)
深谷女(埼)16—8桐朋女
麻生(茨)16—10小平
日川 5—3 桐生女(群)
栃木女(栃)10—1塩山商

▽同準々決勝

昭和学院 13（8—2，5—2）4 甲府市商
明倫 14（9—3，5—0）3 国学院栃木
麻生 10（4—2，6—2）4 深谷女
栃木女 10（5—5，5—1）6 日川

▽同準決勝

昭和学院 8（5—2，3—3）5 明倫
麻生 11（7—6，4—4）10 栃木女

▽同決勝

昭和学院 6（4—1，2—3）4 麻生

東海男は四日市工　6月21、22日清水市で行われた第22回東海高校は、男子が四日市工(三重)女子が清水商(静岡)の優勝。また氷見市の第11回北信越高校は、男子が氷見、女子が小松市女。

鹿児島教員、3連勝飾る

各地の記録

第11回九州選手権大会（男子のみ）は、5月17、18日の2日間宮崎県体育館に15チームが参加して行われた。

各県の実力接近で激戦つづきだったが、鹿児島教員が今年も巧みな試合運びで勝ち進み、決勝では西南ク（福岡）に前半4点のリードを許しながら後半一気の逆転で勝ち、3年連続3度目の優勝を遂げた。

実業団同士の3位争いはブリヂストン久留米（福岡）が新日鉄大分を降した。

▽1回戦

佐賀教員 19（12−7 7−5）12 熊本トヨタ

鹿児島大 27（13−9 14−15）24 宮崎教員

ブリヂストン久留米（福岡） 14（10−5 4−7）12 佐世保ク（長崎）

長崎鶴陽ク（長崎） 16（10−8 6−3）11 宮崎大

西南ク（福岡） 21（12−10 9−7）17 本渡ク（熊本）

佐賀一般選抜 20（2−2 0−0 ： 7−11 11−7）20 宮崎ク（宮崎）

PTコンテスト3−2で佐賀一般選抜の勝ち

新日鉄大分 24（9−12 15−5）17 自衛隊鹿児島（鹿児島）

▽準々決勝

鹿児島教員 28（17−14 11−6）20 佐賀教員

ブリヂストン久留米 30（14−11 16−9）20 鹿児島大

西南ク 34（17−10 17−7）17 長崎鶴陽ク

新日鉄大分 19（13−7 6−7）14 佐賀一般選抜

▽準決勝

鹿児島教員 23（12−12 11−6）18 ブリヂストン久留米

西南ク 21（12−10 9−9）19 新日鉄大分

▽3位決定戦

ブリヂストン久留米 36（22−8 14−10）18 新日鉄大分

▽決勝

鹿児島教員 22（14−7 8−12）19 西南ク

女子クラブは佐賀勝つ

第5回九州女子クラブ大会は5月18日宮崎県体育館に3県4クラブが参加して開かれ、来年に国体開催を控えた佐賀クが、バランスのとれた攻守で2連勝を飾った。

▽1回戦（＝準決勝）

佐賀ク（佐賀） 12（6−1 6−2）3 宮崎ク（宮崎）

大分東シニア（大分） 7（4−3 3−0）3 神埼ク（佐賀）

▽3位決定戦

神埼ク 11（8−3 3−2）5 宮崎ク

▽決勝

佐賀ク 13（5−3 8−2）5 大分東シニア

トヨタ車体、二和家具降す

東海実業団トーナメント

東海実業団リーグ発足（＝本誌前号既報）にともなって新設された東海男子実業団トーナメントは5月11日岐阜県民体育館、25日名古屋市体育館で行われた。

参加したのは3県11チームで予想どおりトヨタ車体（愛知）×二和家具（岐阜）の決勝から、トヨタが後半、持ち前の攻撃力を存分に発揮、快勝した。

この大会の上位チームと大同製鋼（愛知）、本田技研鈴鹿（三重）によって、今秋、東海実業団リーグ（第11回東海実業団選手権）が開かれる予定。

▽1回戦

日本碍子（愛知） 20（1−1 3−1 ： 10−6 6−10）18 三菱油化（三重）

大同製鋼高蔵（愛知） 27（18−4 9−8）12 帝人製機（岐阜）

ブラザー工業（愛知） 21（13−5 8−7）13 三洋電機（岐阜）

▽準々決勝

トヨタ車体（愛知） 30（14−4 16−7）11 日本碍子

日本耐酸壜（岐阜） 12（7−4 5−3）7 大同製鋼高蔵

新日鉄名古屋（愛知） 22（14−6 8−0）6 ブラザー工業

二和家具（岐阜） 18（12−5 6−5）10 トヨタ自工（愛知）

▽準決勝

トヨタ車体 27（12−6 15−6）12 日本耐酸壜

二和家具 19（12−2 7−9）11 新日鉄名古屋

▽3位決定戦

新日鉄名古屋 18（8−5 10−4）9 日本耐酸壜

▽決勝

トヨタ車体 25（17−8 8−6）14 二和家具

高校は伝統校強し

▼富山県春季選手権（5月・小杉高）

▽一般男子1回戦（1試合）

八尾ク 14−10 富山大

▽同準決勝

氷見ク 30−11 八尾ク

H・HC 18−9 富山想球会

▽同決勝

H・HC 26（14−6 12−7）13 氷見ク

▽高校男子準々決勝

日大高岡 21−3 大沢野

二上工 12−7 伏木

八尾 17−11 富山

氷見 28−4 富山東

▽同準決勝

日大高岡 14（延）11 二上工

氷見 28−8 八尾

▽同決勝

氷見 17（8−3 9−5）8 日大高岡

▽同女子準々決勝

小杉 16−3 富山女

高岡女 18−3 富山北

高岡商 7−2 高岡

有磯 32−0 清光

▽同準決勝

有磯 19−1 高岡商

高岡女 7−4 小杉

▽同決勝

有磯 8（3−2 5−3）5 高岡女

成年男子は宮崎市

▼第29回宮崎県民体育大会ハンドボール競技（5月・宮崎市）

▽成年男子1回戦（3試合）

都城市 18−7 東臼杵

小林市 14−11 日南市

延岡市 7−7 児湯郡

▽同準決勝

宮崎市 19−8 延岡市

小林市 8−6 都城市

▽同3位決定戦

都城市 12−9 延岡市

▽同決勝

宮崎市 26（17−2 9−4）6 小林市

▽少年男子決勝

宮崎市（宮崎工） 16（8−3 8−3）6 西都市（西都商）

▽同女子決勝

小林市（小林商） 14（7−4 7−4）8 都城市（都城西）

守山女、接戦で愛知制す

▼滋賀県春季高校大会（5月・米原高）

▽男子準々決勝

彦根東 19―7 彦根西
安曇川 14―6 彦根工
米原 16―10 高島
八幡工 21―5 近江

▽同準決勝

彦根東 16―8 安曇川
米原 15（延）14 八幡工

▽同決勝

米原 7（3-2, 4-4）6 彦根東

▽女子準々決勝

守山女 20―4 能登川
彦根西 9―3 安曇川
愛知 10―8 高島
米原 9―6 彦根東

▽同準決勝

愛知 10―1 米原
守山女 12―8 彦根西

▽同決勝

守山女 5（1-1, 4-3）4 愛知

日新製鋼、三菱レ振り切る

▼広島県一般男子トーナメント（5月、江田島町）

▽準々決勝

日新製鋼呉 25―7 石播重工呉
修道ク 20―14 広島修道大
広島県教職員 20―11 菊翔会
三菱レ大竹 25―9 呉工高専

▽準決勝

日新製鋼呉 20―8 修道ク
三菱レ大竹 24―8 広島県教職員

▽決勝

日新製鋼呉 14（8-5, 6-7）12 三菱レイヨン大竹

川口工、延長で浦和西破る

▼埼玉県学徒総合体育大会ハンドボール競技（5月、浦和市高）

▽男子準々決勝

川口工 17―7 朝霞
浦和市立 17―9 坂戸
浦和西 24―11 聖望
菖蒲 17―2 春日部

▽同準決勝

川口工 10―9 浦和市立
浦和西 7―6 菖蒲

▽同3位決定戦

菖蒲 9―8 浦和市立

▽同決勝

川口工 12（5-3, 4-6 : 1-0, 2-0）9 浦和西

▽女子準々決勝

深谷女 25―1 熊谷商
川口北 11―6 秩父
聖望 11―9 浦和西
浦和市立 10―3 朝霞

▽同準決勝

深谷女 9―3 川口北
浦和市立 18―6 聖望

▽同3位決定戦

川口北 15―3 聖望

▽同決勝

深谷女 9（3-1, 6-3）4 浦和市立

立石電機、地元山鹿市に「快勝」のお祝い

市制記念大会

日本女子実業団リーグで準優勝した強豪・立石電機（熊本）の本拠地、熊本県山鹿市では、その市制20周年記念事業の一つとして有力女子実業団の山鹿市長杯争奪招待トーナメントを5月27日、同市山鹿中学グランドで開いた。

招かれたのは全日本チャンピオンの東京重機（東京）をはじめ、ブラザー工業（愛知）、大崎電気（埼玉）の3チーム、それに地元立石電機が加わって、約四千の観衆を前に熱戦を展開、立石×重機の決勝から、立石が快勝し、市民を大喜びさせた。

本誌の知る限り、市制記念にハンドボール大会が行われたのは全国でも初めてのこと。

▽1回戦（＝準決勝）

東京重機（東京） 16（5-3, 11-4）7 ブラザー工業（愛知）
立石電機山鹿（熊本） 17（10-1, 7-6）7 大崎電気（埼玉）

▽決勝

立石電機山鹿 16（7-4, 9-2）6 東京重機

金沢市役所が強味

▼石川県一般春季大会（5月・金沢美工大体育館）＝男子のみ

▽準々決勝

あすなろク 17―9 県工ク
金沢大 22―7 金沢美工大
七尾ク 24―22 小松製作所
金沢市役所 21―10 金沢工大

▽準決勝

あすなろク 20―15 金沢大
金沢市役所 29―9 七尾ク

▽決勝

金沢市役所 22（9-7, 13-6）13 あすなろク

▼第8回沖縄県一般・教員選手権（5月・沖縄国大体育館）男子のみ

▽一般決勝

琉球大 18（9-9, 9-5）14 沖縄国際大

▽教員準決勝

沖縄工教 30―11 豊見城高教
上山中教 44―29 仲西中教

▽同決勝

沖縄工教 26（10-7, 16-10）17 上山中教

▼山梨県クラブトーナメント（6月・甲府二高）＝男子のみ

▽1回戦（1試合）

塩山ク 15―5 NEC

▽準決勝

日川ク 19―8 大月ク
塩山ク 16―6 甲府ク

▽同決勝

日川ク 15（4-7, 6-3 : 2-0, 3-2）12 塩山ク

大同製鋼高蔵が「初」

▼第33回愛知県実業団リーグ（5月・名古屋市体育館）
▽男子1部
大同製鋼高蔵 41―8 トヨタ自工
大同製鋼高蔵 24―17 トヨタ車体
トヨタ車体 26―11 トヨタ自工
日本碍子 18―15 トヨタ自工
大同製鋼星崎 18―16 トヨタ車体
トヨタ車体 31―4 日本碍子
大同製鋼星崎 18―8 トヨタ自工
トヨタ車体 23―8 新日鉄名古屋
新日鉄名古屋 11（分）11 トヨタ自工
新日鉄名古屋 20―11 日本碍子
大同製鋼星崎 15―13 新日鉄名古屋
大同製鋼高蔵 19―12 大同製鋼星崎
大同製鋼高蔵 27―19 日本碍子
大同製鋼星崎 21―14 日本碍子
大同製鋼高蔵 20―12 新日鉄名古屋
【順位】①大同製鋼高蔵5戦全勝（初優勝。注・これまで14回優勝の「大同製鋼」と同系統ながら別チームとの判断による）②大同製鋼星崎4勝1敗③トヨタ車体3勝2敗④新日鉄名古屋1勝1分3敗⑤日本碍子1勝4敗⑥トヨタ自工1分4敗
▽同2部7位決定戦
パイロットインキ 19―6 トーメン
▽同5位決定戦
三菱重工 19―14 中部電力
▽同3位決定戦
アイシン精機 13―8 豊田工機
▽同1位決定戦
ブラザー工業 11―8 豊田自動織機
▽同1・2部入れ替え戦
トヨタ自工（1部） 13―10 ブラザー工業（2部）
▽女子
ブラザー工業 26―4 伏原紡織
ブラザー工業 23―1 豊田工機
豊田工機 7（分）7 伏原紡織
ブラザー工業 25―1 伏原紡織
豊田工機 15―9 伏原紡織
ブラザー工業 28―6 豊田工機
【順位】①ブラザー工業4戦全勝②豊田工機1勝1分2敗③伏原紡織1分3敗

栃木女、元気とりもどす

▼第16回栃木県高校総体ハンドボール競技（5月）
▽男子決勝リーグ
国学院栃木 10―7 馬頭
烏山 25―9 足利工
国学院栃木 20―9 烏山
馬頭 27―7 足利工
国学院栃木 24―11 足利工
馬頭 17―3 烏山
【順位】①国学院栃木②馬頭③烏山④足利工
▽女子決勝リーグ
栃木女 10―6 小山城南
小山城南 11―7 国学院栃木
栃木女 14―4 国学院栃木
【順位】①栃木女②小山城南③国学院栃木
▽同4位決定リーグ
馬頭 29―3 藤岡
馬頭 9―6 足利女
足利女 6―3 藤岡
【順位】④馬頭⑤足利女⑥藤岡

岡山大、岡山教員かわす

▼岡山県一般男子春季優勝大会（5月・岡山大）
▽準々決勝
児島柏会 29―15 津山高専
岡山教員 26―8 日本ゼオン
岡山大 15―11 天城OB
倉商OB 18（延）14 津山工OB
▽準決勝
岡山教員 15―14 児島柏会
岡山大 11―8 倉商OB
▽決勝
岡山大 14（9―6, 5―6）12 岡山教員

▼福岡県高校選手権（5月・香椎高ほか）
▽男子準々決勝
小倉西 26―13 宗像
若松 9―6 筑紫中央
小倉工 22―9 香椎
久留米工 17―2 門司
▽同準決勝
小倉工 16―10 久留米工
小倉西 14―4 若松
▽同決勝
小倉西 13（8―7, 5―3）10 小倉工
▽女子準々決勝
筑紫女 13―3 浮羽
筑紫中央 9―6 嘉穂農
古賀 16―2 福岡女
東海五 不戦勝 明善
▽同準決勝
古賀 9―5 東海五
筑紫女 11―3 筑紫中央
▽同決勝
古賀 7（6―3, 1―1）4 筑紫女

▼熊本県城南地区体育大会ハンドボール競技（5月・水俣工高）
▽男子1回戦（2試合）
八代 22―16 八代農
水俣 14―9 八代工
▽同準決勝
水俣工 22―7 八代
水俣 10―11 小川工
▽同決勝
水俣工 14（7―3, 7―6）9 水俣
▽女子リーグ
八代農 10（分）10 水俣
八代農 10―7 八代
水俣 8―5 八代

▼東京都クラブトーナメント（4月、東京重機）
▽男子準々決勝
稲門会 24―17 S・K・C
サン・ク 25―14 教駒ク
若木会 14―6 井草ク
神代ク 17―15 府中ク
▽同準決勝
稲門会 22―6 サン・ク
神代ク 20―12 若木会
▽同決勝
稲門会 18（11―7, 7―3）10 神代ク
▽女子決勝
ジューキOG 8（3―2, 5―3）5 全学芸

編集後記

□……各地から続々と大会のニュース（記録）が送られてきます。
わずか1行で表されてしまうスコアですが、どれも汗があり涙があることでしょう。
毎年のことながら今月号は記録パレードになってしまいます

□……このことだけではなく最近の本誌、月々の内容が固定化してしまい、「マンネリズム」を反省しないわけにはいきません。
秋・9月号を目標に誌面刷新を目指しています。おちえをお借し下さい。

□……ピンチに立たされている日本協会財政、少しでも理解をと思い、解説原稿の連載を企画スタートしました。「ここが知りたい」という面がありましたら、質問をお寄せ下さい。

□……訪韓学生選手団が帰国したのは印刷日直前。空港で原稿を受けとって間にあわせました
遠征中、心労にもかかわらず執筆してくれた5選手に感謝いたします。

□……130号でお報せした本誌の編集委員・通信員公募はつねに行っています。是非!!。
この話題を機関誌に、という風潮をいっそう強く育てたいものです。
（S・S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第一三二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五〇年六月二十五日印刷 昭和五〇年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京[illegible]区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価二百五十円（年間購読料二千五百円）